

学報

NARA MEDICAL UNIVERSITY

vol. **86** 2023
秋号

Special Feature

理事長・学長からの
メッセージ vol.29

西日本医科学学生総合体育大会で
学生が躍動！

奈良県立医科大学空手道部



Contents

特集

理事長・学長からのメッセージ vol.29	3
研究紹介	8
令和6年度 看護学研究科博士後期課程を開設します	10
西日本医科学生総合体育大会が開催されました	11
令和4年度計画及び第3期中期目標期間に見込まれる業務実績に関する評価結果	12
MBT 研究所だより (第30報)	14
図書館だより	15
国際交流センターだより vol.13	16
先端医学研究支援機構だより	20
働き方改革だより	21
未来への飛躍基金だより	22
看護部の紹介	23

Topics

「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」が変わっています	24
-----------------------------------	----

Campus News

論文がアクセプトされました	25
奈良臨床漢方医学セミナー（産婦人科領域編）を開催しました	25
JUEMUN (日本大学英語模擬国連) 2023に参加	25
第36回奈良先端大産学連携フォーラムで講演を行いました	25
第26回 公立大学病院医療情報協議会を開催して	26
週刊少年サンデーより取材を受けました	26
MBT 研究所運営会議を開催しました	26
第55回日本医学教育学会大会で発表しました	27
看護学科オープンキャンパス2023を開催しました	27
脈博 HEAT BEAT EXPO 2023 で MBT 講演を行いました	27
中学生の職場体験を4年ぶりに行いました	27
令和5年度コンソーシアム実習(奈良医大・早大連携講座)を開催しました	28
血友病包括外来の取り組み	29
臨床実習における学生の電子カルテ記載が始まりました	29
公開講座「くらしと医学」を開催しました	29
奈良先端科学技術大学院大学との連携活性化に向けた研究者交流会を開催しました	30
第5回MBT 難病克服支援 WEB セミナーを開催しました	30
医学科看護学科合同科目「次世代医療人育成論」を開講しました	31
第76回解剖慰霊祭を執り行いました	31
実験動物慰霊祭を執り行いました	31
MBT 特命教授川本恭治氏(城南信用金庫理事長)による特別講義	32

Winner Report

第23回都留賞を受賞しました	32
第12回奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞の授賞式を開催しました	32
第240回日本内科学会近畿地方会で医学生セッション発表賞を受賞しました	33
第30回中島佐一学術研究奨励賞の授賞式を開催しました	33
2023年度日本蛋白質科学会若手奨励賞	33
奈良医大発ベンチャー「モルミル株式会社」がHVC KYOTO 2023でKRP賞を受賞しました	33
第135回日本循環器学会近畿地方会学生・初期研修医セッション1 優秀賞	34
第32回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会にて会長賞を受賞しました	34
第54回日本膵臓学会大会でPanCAN Clinical Research Awardを受賞しました	34
臨床研究推進助成事業助成金を拝受しました	34

Information

令和6年度 入試日程【医学部】	35
公開講座情報	35

寄附者ご芳名

「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました	35
メディア掲載情報	36
編集後記	36

令和4年4月に学長3期目に再選されてから、はやくも1年半が過ぎようとしています。新型コロナウイルス感染症につきましては、みなさまのご協力のおかげでこの難局を乗り越えてくることができました。ご尽力いただきましたみなさまに、心から感謝を申し上げます。

この1年半を中心に、これまでの取り組みをまとめましたのでご覧ください。

今後ともみなさまの温かいご支援とご協力をいただくと幸いです。

学長3期目前半の主な取り組み

(2022年4月1日～2023年9月1日)

- ：2期目までに始めた事業
青字：2期目までに行った内容
黒字：【3期目前半の進展】
(注) 2期目までに完成した事業、継続中だが特記すべきことがない事項は掲載していません。
- ：3期目前半に開始した事業【3期目前半新規】 黒字で掲載
- ★：他学ではあまり行われていない、独自のアイデアに基づくユニークな事業や先進的な事業

1. 教育

- ★ **後期入試重視による偏差値の上昇**
【3期目前半の進展】 2023年度入試判定基準A(ベネッセ・駿台データネット)及び河合塾算定国公立大学医学部偏差値における定員50人以上の入試区分の集計において、判定基準・偏差値がそれぞれ全国第3位となった。
- ★ **臨床英語日本一を目指した英語教育改革**
【3期目前半の進展】 英語で行う医学教育の推進
・「英語で学ぶ医学・看護学(WEB)セミナー」の開催(第1回 2021年9月、第2回 2021年11月、第3回 2022年2月、第4回 2022年8月、第5回 2022年12月、第6回 2023年3月、第7回 2023年7月)
・模擬国連世界大会ニューヨーク大会への奈良医大チームの参加(医学部から唯一の参加、2つの賞を受賞)
・「医科学英語」に「即興型英語ディベート」を導入し、その集大成として「代表学生エキシビジョンディベート&100人ジャッジ」を開催
- ★ **海外や国内の有名研究機関での学生実習(リサーチクラークシップ)**
【3期目前半の進展】 研究成果としてジャーナルに複数の論文が掲載(International Journal of Hematology 誌、Langenbecks Arch Surg 誌、Cell 誌など)
- ★ **アントレプレナーシップ育成**
【3期目前半の進展】 MBT 特命教授・講師(長榮周作・パナソニック前会長、森雅彦・DMG 森精機社長、矢野博丈・ダイソー創業者、中村勝・クオールホールディングス会長、梅岡比俊・医療法人梅華会理事長)による特別講義
- ★ **シミュレーション教育の推進**
【3期目前半の進展】 ・スキルスラボのシミュレーターを活用した実習の積極的な推進
・「感染症医療人材養成事業計画」に基づき整備したシミュレーターを臨床実習等で活用し、事業計画を実行
- ★ **「アクティブ・ラーニング」による新しい授業手法の積極的導入**
【3期目前半の進展】 ・基礎医学教育の専門科目及び統合臨床講義の全科目に反転授業を導入
・入門臨床手技実習や医師・患者関係学で小グループ講義を導入
・基礎医学Ⅰ(2年)、基礎医学Ⅱ(3年)、臨床医学Ⅱ(5年)でTBL(チーム基盤型学習)を、6年次でPBL(問題基盤型学習)を実施
- ★ **診療参加型臨床実習の推進**
【3期目前半の進展】 ・令和4年度に臨床実習のローテーションを変更(28週→44週)
・指導体制や実習内容(学生の1日の流れ)等を新たに規定した「診療参加型臨床実習実施要領」に則った実習を実施
- ★ **医療人育成機構の運営**
【3期目前半の進展】 研究医のキャリア形成をシームレスに支援するため、「研究助教(研究医養成コース)」を設置
- **教員・学生の対話の機会を充実**
【3期目前半の進展】 ・医学科：成績不振者に対し、メンターの配置、教育部長等の面談などによりフォローアップを実施
・看護学科：学生全員にアドバイザー教員を配置し、成績下位者に対してフォローアップを実施
- **【3期目前半新規】医学教育分野別評価の受審**
・最新の評価基準に適合した医学教育となっているか点検を行い、必要な教育改革を行うため、医学教育分野別評価委員会及び領域ごとに専門部会を2022年4月に設置し、2024年1月の受審に向けた準備を開始

理事長・学長からのメッセージ vol.29

- **【3期目前半新規】「デジタル医用工学」の開講**
 - ・AIやロボット医療の急速な進歩に対応し、さらに発展・開発できるような人材養成を行うため、「デジタル医用工学」を2022年度より開講
- **【3期目前半新規】大学IRの導入**
 - ・学生の学修成果に関する情報や大学全体の教育成果に関する情報を的確に把握・測定のうえ客観的に調査・研究を行い、教育活動の見直し等に適切に活用する「大学IR」を導入し、「教学マネジメント」を確立するため、教育開発センターに専任の教員を配置
- **【3期目前半新規】医学科一般選抜（前期日程）の選抜方法を変更**
 - ・グローバルな視野から医学・医療の進歩や社会とのかかわりに関心を持ち、未だ答えのない課題等を見出し解決しようとする資質を評価するため、2024年度入試より、前期日程の個別学力検査等の学科試験を廃止し、小論文試験を実施することを決定
- **【3期目前半新規】看護学教育評価の受審**
 - ・外部有識者の教育評価を受け、教育内容の質の向上を図るため、日本看護学教育評価機構による看護学教育評価を2022年10月に受審
- **【3期目前半新規】看護学研究科博士後期課程の設置**
 - ・高度な知識・技能を有する看護師を養成するため、高度な教育力・研究力を持った教員の人材養成を行うことを目的として、看護学研究科博士後期課程の設置を目指し、2023年3月に文部科学省に設置許可申請を行った。

2. 研究

● 優秀な研究者の育成支援、科研費獲得支援、若手・女性・医療スタッフの研究支援

【3期目前半の進展】

- ・本学及び民間URAによる科研費研究計画調書に対する相談・指導、セミナー開催、科研費ニュース【Go for it!KAKEN】の発行などによる科研費申請支援策の実施
- ・若手研究者国際学会発表事業、女性研究者への研究支援員配置制度の拡充（週5日勤務の医員への拡大）（14名に配置）、女性研究者に対する科研費獲得支援事業の実施（11名支援）
- ・若きトップサイエンティストの挑戦を掲載し、本学で国際的に活躍している若手研究者を学内外に紹介（vol.5～vol.11 7名）

PubMed対象の英文学術論文数

年度	2019	2020	2021	2022
件数	651	732	838	873

文部科学省・日本学術振興会科学研究費助成事業

年度	2019	2020	2021	2022	2023
件数	225	232	252	256	256
金額(千円)	302,680	337,500	337,160	335,600	327,100

※ 2019～2021 交付決定件数・額、2022～2023 交付内定件数・額

● 奈良先端科学技術大学院大学との連携進展

【3期目前半の進展】 相互の施設・設備の共同利用の便宜を図るなど更なる連携活性化のため、共同研究組織「連携活性化推進室」を設置

● 奈良県と県内市町村が実施する健康増進事業への協力・連携

【3期目前半の進展】 新たに後期高齢者医療広域連合と共同で新規町村支援を実施（2022年度 年間新規支援組織団体数7件）

● ★ 研究成果の社会還元のため研究者の起業を支援

【3期目前半の進展】 奈良医大発ベンチャー企業の実立（2社→6社）

2021年10月MBT感染対策支援コンサルティング（株）、2022年1月（株）MBT保健医療衛生研究開発機構、
2022年6月モルミル（株）、2022年10月（株）MBTジョブレオーネ設立

● 先端医学研究支援機構を通じた研究総合力の強化

【3期目前半の進展】 URAによる新たな取組の実施やテクニシャンの増員など先端医学研究支援機構の機能を強化

● 【3期目前半新規】英語論文校正費用助成事業の創設

・未来への飛躍基金を活用し、若手研究者を対象とした英語論文校正費用の助成制度を開始（2022年度：32件助成）

● 【3期目前半新規】外部委員2名を含めた総合研究棟グランドデザイン策定委員会の設置

・本学が目指すべき研究の方向性を明確化し、動物実験施設、組換えDNA実験施設、RI実験施設のあり方や研究リソースを効果的・効率的に利用する方策、また研究を促進させる研究実験補助員等の配置について意見、助言を得ることを目的として委員会を設置し、総合研究棟の運用についてグランドデザインを策定

● 【3期目前半新規】奈良県内国公立高等教育・研究機関における連携・協力に関する協定の締結

・奈良県内における国公立の大学、研究機関等9機関において、教育・研究活動、産学官連携、社会貢献活動等、広く連携を図り、各機関の更なる充実発展に資することを目的に協定を締結

● 【3期目前半新規】奈良医大、DMG 森精機、奈良精工が、奈良県研究開発支援補助事業に共同で応募した「超音波ガイド下手術・手技器具の開発事業」の課題が採択（補助金額1億円、企業出資分と合わせて1.5億円）

● MBT関係は総合欄に記載

3. 診療

● ★ 全国から医師を集める制度 (外科マスター、ドクターNなど)

【3期目前半の進展】 外科マスター医が9名に増加(2022年7月「前立腺小線源治療マスター」、2023年3月「I V R (画像下治療) マスター」称号付与)

● ★ 【3期目前半新規】「奈良医大(治療手技等)パイオニア」称号付与制度の創設

・新たな治療手技を開発又は開発された治療手技を継承し、その技術の普及に積極的に取り組んでいる医師に対して、「奈良医大(治療手技等)パイオニア」の称号を付与(第1号 2022年7月 称号名「上部尿路癌に対する蛍光イメージガイド尿管鏡下レーザー焼灼による腎温存療法」)

● 【3期目前半新規】臨床研修センターの充実

・マッチング結果：2022年度 100% (54/54名)、2023年度 92.5% (49/53名)
・マッチング率を向上させるため、センターの機能・処遇を充実(当直室の個室化、Wifi環境整備、結婚祝い・出産見舞金制度の創設など)
・医学科5・6年生に対し、理事長自ら面談を実施

● 働き方改革への対応

【3期目前半の進展】 ・医師労働時間短縮計画の策定、近畿厚生局への提出(2022年9月)
・特定労務管理対象機関(B・C-1水準)指定申請のため、評価センターへの自己評価シートの提出、関連規程の整備などを実施

● 臨床系講座の再編・新設

【3期目前半の進展】
・血液内科学講座：血液疾患をより専門的に診断・治療・研究を行うため、呼吸器内科学講座から独立して設置
・感染症内科学講座：感染症内科学の発展及び医療人材の養成に向けた効果的な組織運営を行うため、感染症センターを講座として再編

● 【3期目前半新規】在宅医療支援センター設置

・奈良県内(特に中和医療圏)において在宅医療体制を支援するため設立

● 【3期目前半新規】附属病院が奈良県初の「がんゲノム医療拠点病院」に指定

・中核拠点病院と連携し、診療提供、人材育成、研究開発などがんゲノム医療を自施設で完結できる医療機関となった。

● 【3期目前半新規】(仮称)高度生殖医療センターの設置

・高度生殖補助医療を担うセンターを設置し、不妊患者やがん患者等のニーズに対応
(一般の病院では対応が困難ながん患者に対する妊孕性温存などの不妊に対する高度な医療を提供)

● 医療費適正化への貢献

【3期目前半の進展】 後発医薬品の使用割合80%を達成(県医療費適正化計画・中期目標)

● 新型コロナウイルス感染症患者受入病床の確保

【3期目前半の進展】 引き続き大学病院としては全国2位となる最大80床を確保し、患者を受入

4. 総合

● ★ MBT構想(医学による日本創生モデル)

以下の大部分は奈良医大MBT研究所(所長:細井裕司)とMBTコンソーシアム(理事長:細井裕司)の共同事業です。

● (特記1) MBTコンソーシアム会員企業 186社(2023.7.26現在)

・2023年7月、日本ファイリング(株)、(株)ハヤシ・ニットが加わり、奈良医大の下に集まっているMBT会員企業が186社となった。会員企業の本社所在地は19都府県に分布しており、大阪57社、東京55社、奈良37社となっている。医科の単科大学にすべての業種から200社に近い企業が集まる世界に例のない組織に発展した。

● (特記2) 難病克服キャンペーン

【3期目前半の進展】 ・キャンペーンに対し6団体からの後援名義使用許可を得た。また協賛企業は37社となり、広報活動を依頼
・難病克服支援MBT映画祭の開催
(第1回 2022年1月 橿原文化会館、第2回 2023年1月 東京有楽町マリオン(野田聖子議員の講演、NHKテレビで全国放送)、第3回 2024年1月 よみうり大手町ホール(吉永小百合氏の講演など予定))
・難病への理解促進のためのMBT映画祭受賞作品の上映
(2022年3月 けいはんなプラザメインホール、2022年10月 うめきた外庭SQUARE、2023年2月 岡山県高梁市立図書館)
・難病克服支援WEBセミナー
(第1回 2021年9月、第2回 2022年3月、第3回 2022年9月、第4回 2023年3月、第5回 2023年9月)
・「MBT映画祭」に参加した奈良医大学生による難病啓発映画作品「豊かに生きるマニュアル」の制作ドキュメントが、2022年6月2日(木)NHK奈良放送局から放映
・三井住友銀行と「MBT難病克服キャンペーン」の遺贈寄附に関する協定を締結(2023年2月)

理事長・学長からのメッセージ vol.29

● (特記3) コロナ克服キャンペーン

【3期目前半の進展】・新型コロナウイルス不活化評価は奈良医大発ベンチャー企業「MBT 微生物学研究所 (株)」へ、コロナ感染対策相談は「MBT 感染対策支援コンサルティング (株)」へ、活動をシフト

- ・銅合金マスク (奈良医大とやまと真空工業 (株) の共同開発) 素材のオミクロン株不活化評価をメディア発表するとともに、附属病院内での製品販売を開始
- ・新型コロナウイルス感染症との戦いで、奈良医大医療チームの「Microsoft Teams」を活用した成果事例を Microsoft 社が自社ホームページで紹介

● (特記4) 【3期目前半新規】経団連地域協創アクションプログラムへの参加

- ・経団連の地域協創アクションプログラム 10 項目のうちの 1 つ (「医療・育児・介護・移動など健やかで快適な暮らしの基盤を協創する」) となる (2021 年 11 月)
- ・第 1 回地域協創ウェビナーで「医学による地域協創・産業創生 (MBT) の全体像と地域活性化のための医学的に正しいコロナ対策の推進」の演題で講演 (2022 年 2 月)
- ・「医学的に正しいコロナ対策による MBT ビジネス活性化セミナー」を MBT コンソーシアム・奈良医大・経団連の共催で開催 (2022 年 4 月)
- ・連携パートナーが一堂に会する交流会が経団連会館で開催され、活発な意見交換を実施 (2022 年 11 月)

● (特記5) 【3期目前半新規】「よい仕事おこしフェア実行委員会」(事務局:城南信用金庫)との連携協定締結

- ・奈良医大および MBT コンソーシアムと「よい仕事おこしフェア実行委員会」(事務局:城南信用金庫) が 2023 年 2 月 27 日に連携協定を締結。全国の信用金庫と連携し、医学の知識を基に社会貢献活動を展開
- ・奈良医大・MBT コンソーシアム、よい仕事おこしフェア実行委員会、(株) 時事通信社、東京新聞、(株) 福島民報社、明治安田生命保険 (相)、ラディウス (株) の 8 団体が「高齢者活躍推進のための協力宣言」を締結 (2023 年 7 月)
- ・上記協定に基づく、難聴者のための窓口用軟骨伝導聴覚補助イヤホンの導入が全国の自治体・機関等に拡大 (城南信用金庫、奈良中央信用金庫、東京都狛江市、宇陀市、田原本町、警視庁大崎警察署、静岡県伊豆の国市、神奈川県座間市、山口県長門市など)

(その他の活動) 【3期目前半新規】

- ・日経クロスヘルス EXPO2021 にて特別セッション「これが近未来の新市場『空間×ヘルスケア 2030』の全貌」を実施
- ・ウエルシア薬局にて健康ステーションを定期開催、ぱれも薬局本店内に「MBT ぶれもカフェ」を開設
- ・全国各地で MBT 講演・意見交換会の実施 (北海道更別村、福島県伊達市、真美ヶ丘ニュータウン、第 48 回技術士全国大会 (奈良) など)
- ・リハビリテーション医学講座・脳神経内科学講座と株式会社三笠が共同で、(株) 三笠が保有の特殊編み技術を用いて手指機能強化手袋を開発 (特許取得済み) し、メディア発表、併せて第 59 回日本リハビリテーション医学会学術集会 (於:横浜市) でも発表。
- ・MBT 研究所が参加した北海道更別村の「更別村 SUPER VILLAGE 構想」が「令和 3 年度補正予算 デジタル田園都市国家構想推進交付金」最上位の TYPE3 に採択
- ・東大阪市・花園中央公園で開催の「HANAZONO EXPO」に“ヘルスケアとリラックスをもたらすパチンコやゲーム等”体験デモで奈良医大・MBT コンソーシアムが出展参加
- ・2023 年 2 月 21~22 日開催の大学・研究機関による来場者体験型展示とイノベーション関連セミナー「イノベーションストリーム KANSAI」に参加
- ・北海道沼田町での健康・見守り支援事業「家庭電力データの活用が健康見守りや行動変容の促進に有効」、東京で実証実験成果を報道発表
- ・～再生可能エネルギーを最大限活用した～吹田サスティナブル・スマートタウンの施設見学・研修会を開催
- ・第 36 回奈良先端大産学連携フォーラム「未来社会への提案 VOL.3 ~医療・健康からのアプローチ~」で MBT 医工連携の形を紹介
- ・MBT 関連の広報を積極的に展開 (コンソーシアムの HP をリニューアル、産経新聞東京 23 区版朝刊にカラー広告を掲載、都営地下鉄 4 路線につり革広告の実施、2023 年 4 月 14 日夜に NHK 大阪放送局「かんさい熱視線」で地方の危機を“攻める”大学が救う!? として紹介、2023 年 5 月 16 日に NHK 大阪放送局の「おはよう関西」で MBT の新製品開発活動が紹介 など)
- ・MBT 関連書籍「MBT なぜ単科の医科大学に全業種から 200 社が集まったのか？」を出版
- ・MBT ロゴマーク審査委員会 (委員長:渡辺好章同志社大学名誉教授) によるロゴマークの認定商品が 2 期目より 6 品目増加し、19 品目となる。

5. その他

- **未来への飛躍基金：将来を担う優れた人材育成を目的とした修学環境の向上、社会貢献及び国際交流推進のため各種施策に活用**
【3期目前半の進展】・基金創設後8年間で総額約11.2億円（2023年3月末現在）の寄附を獲得
 - ・新たに若手研究者への英語論文校正費用の助成制度を創設。また学外寄附者紹介所属に対する教育・研究活動等助成事業の助成率を引き上げ
 - ・基金に多額のご寄附をいただき、紺綬褒章を授与された方が5名となった。
- **学内広報の活性化**
【3期目前半の進展】・理事長・学長からのお知らせの学内一斉メール：vol.27～vol.31の5回
 - ・学報における理事長・学長からのメッセージ：vol.78～vol.85の8回
 - ・奈良医大キャンパスだより：第11号～第13号の3回
 - ・MBTニューズレター：第101号～第226号の126回、MBTジャーナル：vol.9～vol.12の4回
- **積極的な情報発信、広報の充実**
【3期目前半の進展】 マスメディアの活用
 - ・記者会見、新聞・雑誌・テレビ等マスコミ取材、テレビ出演、記事掲載など積極的にマスメディアを活用し、情報発信
 - ・大学全体の期間中の報道等件数：158件、うち理事長・学長が対象となった報道等件数：18件
 - ・「新型コロナウイルス感染症対策記録集～国内で感染した1例目の日本人陽性者の受入からの軌跡～」を特設サイトにて公開し、本学の新型コロナウイルス感染症に対する取組を発信
 - ・県民健康増進支援センタープレスリリース（「保健師数と COVID19 罹患率についての都道府県別生態学的研究」新聞記事掲載 19社、WEB版 公開10社、インタビュー取材3社、奈良テレビの放映）を実施
 - ・MBT関連の広報は前述のとおり
- **障害者雇用の推進**
【3期目前半の進展】・奈良県自治研修所と合同で「職場のダイバーシティ推進研修」を実施
 - ・大学発ベンチャー企業として、障害者雇用に関する種々の指導・企画・支援を行う株式会社MBTジョブレオーネを認定
 - ・奈良医大障害者雇用10周年記念フォーラム「私たちが主役だ！」を開催（2022年10月）
- **キャンパス整備**
【3期目前半の進展】・新キャンパス先行整備については、2024年度中の竣工に向け、建設工事を実施中。
 - ・新駅を含む医科大学附属病院南側地区のまちづくりに関する連携協定を奈良県、橿原市、近畿日本鉄道（株）と本学の4者で締結
 - ・新A棟整備について、2023年3月に「奈良県立医科大学附属病院新A棟基本構想」を策定し、それを踏まえ2023年度・2024年度において、新A棟の規模や各部門の運営計画、具体的な施設整備計画等を示した「新A棟基本計画」を策定することを決定。
 - ・効率良く新A棟整備を行うため、高さ制限の緩和について橿原市と協議を進めている。
- **【3期目前半新規】開学80周年記念事業**
 - ・2025年に、開学80年を迎えること、また同年には新キャンパスがオープンとなることを踏まえ、記念事業の実施に向けた取組を進めるため、（仮称）開学80周年記念事業実行委員会を設置
- **【3期目前半新規】特任教員雇用管理審査委員会の設置**
 - ・特任教員の雇用の透明化及び適正化を図るため、外部委員を含む審査委員会を新たに設置
- **【3期目前半新規】寄附講座等設置審査委員会の設置**
 - ・本学の寄附講座及び共同研究講座の設置の可否を決定する際にその妥当性、必要性、安全性を含めて十分に検討するため、外部委員を含む設置審査委員会を新たに設置
- **【3期目前半新規】附属病院長及び名誉教授の選考に関する規程の整備**
 - ・附属病院長候補者及び名誉教授について、人格が高潔であることを明確化するため、規程改正を実施
- **新型コロナウイルス感染症対応手当の支給**
【3期目前半の進展】2021年度：正規職員 50,000円、嘱託職員 30,000円支給
2022年度：看護職員を除く全職員 25,000円支給
- **【3期目前半新規】看護職員の処遇改善**
 - ・地域でコロナ医療など一定の役割を担う医療機関に勤務する看護職員等の処遇を改善する閣議決定に基づき、看護職員に手当を支給 2022年2月～ 4,000円/月、2022年10月～ 12,000円/月
- **【3期目前半新規】妊娠・出産・育児等と仕事の両立支援**
 - ・育児・介護休業法の改正に対応するため、不妊治療のための休暇の新設、配偶者出産・育児参加のための休暇・産前産後休暇の取得対象の拡大などの措置を実施
- **【3期目前半新規】非正規職員の特別休暇等の拡大**
 - ・同一労働同一賃金の観点から、一部の特別休暇、職務専念義務免除について、正規職員と非正規職員との間の待遇差の解消を図るため就業規則等を改正

私の「坂の上の雲」



解剖学第二 教授 和中 明生

司馬遼太郎さんの沢山ある著作の中でも「坂の上の雲」はタイトルが秀逸だと思っています。明治時代の有名無名の人々が坂の上にポカッと浮かぶ白い雲を目指し汗水垂らして登っていき、登り切った(日露戦争の勝利) 頭上には同じように雲が浮かんでいたというお話と勝手にイメージしています。雲は大国日本というような目標でしょうか、届きそうで届かない感じがしますし、何度でも坂に挑戦せよという励ましも感じます。「山の上の太陽」ではこのイメージは出ません。山本浩司教授の後任として 2002 年 4 月に着任して以来、奈良県立医科大学での 22 年間、以下テーマに分けて振り返ります。

〈損傷脳の増殖細胞～走るマウス～抑制性アストロサイト〉

赴任当初から辰巳晃子助手(現准教授)には色々無理を言って脳損傷部位での増殖細胞を BrdU 取り込みでマッピングするという手間暇がかかる実験を根気強く遂行していただきました。第二解剖発の第一弾(10.1016/j.neuint.2004.12.007)は嬉しかった。この仕事を起点として脳内アストロサイトが研究の主な標的となり、2008 年には脳損傷部位の細胞を Olig2 プロモーターを用いた遺伝子マーキングによって経時解析した辰巳論文が出ます(10.1002/jnr.21862)。併行して脳損傷時の糖鎖修飾もテーマとして発展し、奥田洋明助教(現金沢大学准教授)の労作 2 本(10.1074/jbc.M113.504787、10.1111/jnc.12736)に結実しました。Olig2 マーキングはアストロサイトの形態が自発運動の多寡に応じて可逆的に変化する事を描き出し(10.3389/fncel.2016.00165)以降「走るマウス」は私のお気に入りのプロジェクトとなりました。この延長線として脳内には抑制性神経伝達に特化したアストロサイト亜集団が存在するというを示唆しました(10.3389/fnana.2018.00008)。

〈臨床各科との共同研究〉

2005 年より徐々に臨床科との連携も活発化し、第三内科植村正人先生(故人)が辰巳助手の懇切丁寧な指導の下、免疫組織化学と in situ hybridization を駆使して肝星細胞が VWF 切断酵素の主たる産生細胞である事を証明しました。輸血部藤村吉博教授グループとの記念碑的論文(10.1182/blood-2005-01-0152)です。精神科との共同研究もこの頃よりスタート。牧之段学院生(現准教授)が母体免疫活性化と脳発達の関係を示し(10.1002/jnr.21673)、この後留学を経て大飛躍、幼少期の成育環境の重要性について国内外にインパクトを与えていることは共同研究者として無上の喜びです。

〈思わぬ方向に発展し…〉

2013 年当時にアストロサイト研究の為に導入した Mlc1-TG マウスを辰巳がチェックしていた際に他のマウスに比べて痛み刺激に対して鈍感である事に気付きました。「痛み」は元々の目的では無かったのですが、奥田、田中達英講師のリリースで 10 年かけて SNX25 という蛋白が真皮層マクロファージ内で Nrf2 転写調節因子の分解を抑制、Nrf2 が NGF 産生を促進、さらに分泌された NGF が感覚神経の感度を一定以上に保っているというメカニズムを 2023 年に発表致しました(10.1038/s41590-022-01418-5)。この研究は多くの痛み、疼痛研究者の盲点となっていた「正常状態での痛覚閾値」の問題に光を当てるものです。内蔵痛などにも同様のメカニズムが当てはまるのではないかと考え、田中を中心に辰巳准教授、石西綾美助教が研究を進めている所です。

届きそうで届かない、でも何度でも挑戦する、そんな目標をチームみんなで共有した 22 年間に今改めて感謝したい気持ちで一杯です。またこのような場を与えていただいた本学の今後益々の発展を祈念しております。

研究今昔物語



眼科学 教授 緒方 奈保子

医学部卒業時に専攻科目を決めるにあたって外科系に進みたい、眼科を選択しました。知るほどに、眼はとても綺麗で不思議な神秘に満ちた臓器でした。

大学院生の時はラット網膜の病的変化を光学顕微鏡、透過型電顕や走査型電顕で調べる病理組織学的な研究で学位を得ましたが、その後の研究の転機の1つは留学でした。

夫が留学することになりましたが、ある日夫の所属する教室の教授に呼ばれました。「君ももれきゅらーするなら、研究のポストJ1で用意してもらうよ、おもわず「はい」と答えました。「もれきゅらーするなら、お給料もらえるって!」「へ〜」「ところで、“もれきゅらー”って何?」「・・・(絶句)」。そのころはまだPCRが普及しはじめたころ。電顕ばかりみていた私にはmolecular biology(分子生物学)は全く縁のないものでした。

近代免疫学の父と言われたRobert A. Good教授の研究室に留学しましたが、なんと私の研究テーマはAIDS。毎日AIDSマウスの採血と脾臓を摘出してサイトカインのPCR。マウスの採血は、眼球を鑷子でひきちぎり眼動脈からの出血を集めるという、眼科医としてはあるまじき行為。まあなんとかfirst authorの論文も、Proceedings of the National Academy of Sciences(PNAS)の共著もできました。

留学を終え眼科学教室に戻り、当時の教授のお許しを得て分子生物学の研究室をセットアップし、眼内のサイトカイン発現の研究を始めました。また、組織切片上でmRNA発現を見るin situ hybridizationにも取り組みました。プラスミドにc-DNAを組み込みmRNAプローブを作成して、と試行錯誤しつつの実験でした。

留学から帰って間もなくのころ参加した国際学会で、PEDF(pigment epithelium derived factor)というサイトカインを知りました。抗血管新生作用と神経保護作用の2つを併せ

持つ、眼にとっては理想的な物質でした。しかし測定するにもキットもなく、抗体から作成した手作りELISAでの実験でした。キットが市販されると、使用説明書に私の論文が引用されていてびっくりしました。研究の結果、PEDFとVEGF(vascular endothelial growth factor)のバランスの崩れで眼内血管新生が起こることがわかりました。今、神経保護作用を目的としたPEDF遺伝子治療が九州大学で網膜色素変性症を対象に2022年から医師主導治験が始まっています。

糖尿病、加齢黄斑変性の血管新生機序におけるサイトカインの発現、網膜虚血と神経保護作用、アポトーシスの研究、さらに遺伝子治療や小胞体ストレスについてin vivoの動物実験と同時に培養細胞を使ったin vitroの実験、また加齢黄斑変性、糖尿病網膜症の臨床研究を行い、多くの先生と一緒に実験、研究ができ、こちらに赴任するまでに15名の学位指導を行うことができました。

奈良県立医大に赴任してからは、今までの研究を進めると同時に網膜画像解析にも取り組みました。新たに縁があってコホート研究にも参加させていただきました。高齢化が進む日本において高齢者の健康維持は大きな課題です。藤原京スタディ、平城京スタディに参加させていただき、視力と認知症、白内障と生体リズム(睡眠、認知症、血圧、動脈硬化)の関係の解析、さらに緑内障スタディ、LIGHTスタディに発展し現在も続き、教室の大きな研究テーマになっています。

1つのテーマをひたすら追求する研究者も多くありますが、私の場合は院生時代の電顕に始まり、留学中は免疫とサイトカイン、帰国後はin vitro、in vivoおよび臨床研究でサイトカイン、血管新生、神経保護、アポトーシス、遺伝子治療、小胞体ストレスと変遷し、奈良医大に赴任後は網膜画像解析、コホート研究、白内障スタディ、緑内障スタディ、と時代と環境と興味の追求によって研究は変遷してきたようです。

令和6年度 看護学研究科博士後期課程を開設します

看護学研究科は、平成24年に、深い人間理解に基づいたケアができ、高度な実践能力を有する看護師・保健師・助産師を育成すること、また、進歩著しい看護学教育を主体的に取入れることを目的に修士課程を開設し、今まで96名の修士生を輩出してきました。より一層の発展を見据えて、実践科学としての看護学の深奥を究め、自立して教育・研究を行うことができる高度な能力を有する人材の育成を理念とした博士後期課程の開設に向けて取り組んできたところですが、この度、文部科学省の認可を受け、令和6年4月から開設することとなりました。

既存の修士課程は、博士前期課程と名称を改め、前期2年、後期3年に区分する博士課程として、新たなスタートを迎えます。

博士後期課程では、様々な健康レベルや健康に対するニーズを持つ人のライフサイクルに応じ、より個別性を見据えた健康回復・維持・増進に対応するため、生涯発達看護学分野と療養・生活支援看護学分野の2つの分野を設け、領域の垣根を超えて、連携して教育を行う体制をつくりました。

生涯発達看護学分野は、既存の修士課程の6つの専門領域（健康科学（心と脳の発達学）、高齢者看護学、小児看護学、女性健康・助産学、精神看護学、公衆衛生看護学）を統合し、発達し続ける人間の存在に対する深い理解を基盤に看護を探究する分野です。

療養・生活支援看護学分野は、既存課程の5つの専門領域（健康科学（睡眠学）、基礎看護学、看護実践応用学、がん看護学、在宅看護学）を統合し、人々の生活を基盤に高度な専門性と実践を探究する分野です。

社会人の修学支援を目的に、3年間の学費で、最大6年間の就業が可能な長期履修制度や土曜日の開講、平日の夜間開講等を取入れており、働きながら学位を取得し、キャリアアップしたいと考えている方にも学びやすい環境を整えています。

定員は、2名で、9月から募集を開始していますので、興味のある方は、看護学科の教員又は教育支援課まで気軽にお問い合わせください。

川上看護学研究科長からのメッセージ

この度、大学院看護学研究科におきまして博士後期課程の開設認可をいただきました。申請にあたりご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

本学、看護学研究科博士後期課程は、奈良県で唯一の博士（看護学）を授与できる課程です。研究者・教育者の育成、高度な実践能力と創造的な研究能力に基づいた社会貢献を目的としています。今後も皆様のご協力とご指導を仰ぎながら看護学研究科を発展・充実させていきたいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。

修業年限
2年

入学定員
各コース5名

博士前期課程 (修士課程)

教育研究上の理念

豊かな感性・人間性と高度専門職業人としての倫理観を備え、高度化・専門分化および多様化していく医療に要求される知識や技術を的確に習得・発展させながら、実践科学としての看護学を探究する高度な実践能力と基礎的な研究能力を有する看護職者の育成をめざす。

教育目的

- 1 優秀かつ柔軟な資質を併せもち、研究・教育・臨地のいずれの領域においても指導者となり得る人材の育成を図る。
- 2 生命の尊厳の深い理解を基盤とし、専門性の高い看護実践能力と教育研究能力を備えた、看護学実践の専門職者、管理者、教育者を育成する。
- 3 人間性豊かな高い倫理観を有し、生涯にわたって自ら学び、自立して研究ができる医療人の育成に努める。
- 4 看護学における基礎的な研究能力を養うとともに、地域の特性を踏まえて、看護学と生命科学・社会科学の調和を図る。

看護学コース

論文コース	健康科学(心と脳の発達学) 看護実践応用学 小児看護学 在宅看護学	健康科学(睡眠学) がん看護学 女性健康・助産学 公衆衛生看護学	基礎看護学 高齢者看護学 精神看護学
高度実践コース	高度実践看護師教育課程(クリティカルケア看護分野、がん看護分野) 周麻酔期看護師教育課程		

助産学実践コース

女性健康・助産学

修業年限
3年

入学定員
2名

博士後期課程

【新設】R6年4月開設予定

教育研究上の理念

豊かな感性・人間性と高度専門職業人としての倫理観を備え、高度化・専門分化および多様化していく医療に要求される学識を有し、実践科学としての看護学の深奥を究め、自立して研究・教育を行うに必要な、高度な能力を有する人材の育成をめざす。

教育目的

- 1 一養成する人材像—
優秀かつ柔軟な資質を併せもち、生涯にわたって自ら学び、看護学の発展を牽引できる人材を育成する。
- 2 一研究者・教育者の育成—
深い専門知識や技能を持って、国際的視野から幅広く看護学を探究できる研究者・教育者を育成する。
- 3 一社会貢献—
人間性豊かな高い倫理観に基づいた高度な看護実践能力と創造的な研究能力をもって地域・社会に展開できる人材を育成する。

生涯発達看護学分野

健康科学(心と脳の発達学) 高齢者看護学 小児看護学	女性健康・助産学 精神看護学 公衆衛生看護学
----------------------------------	------------------------------

療養・生活支援看護学分野

健康科学(睡眠学) 基礎看護学 看護実践応用学	がん看護学 在宅看護学
-------------------------------	----------------

看護学研究科の関係図

西日本医科学生総合体育大会が開催されました

4年ぶり開催！ 西医体で学生が躍動！

空手道部：男子組手個人新人戦 優勝 および 準優勝

柔道部：男子個人新人戦 75kg級 準優勝、女子個人戦 準優勝

卓球部：女子個人戦シングルス 準優勝

今年は4年ぶりに第75回西日本医科学生総合体育大会が開催されました。

競技別では、空手道部の男子組手個人新人戦優勝および準優勝、柔道部の男子個人新人戦 75kg級 準優勝、女子個人戦 準優勝、卓球部の女子個人戦シングルス 準優勝、女子団体戦 3位、野球部 3位をはじめ優秀な成績をおさめました。

◇期 間：令和5年8月5日～8月20日

◇主 管：関西ブロック

◇代表主管校：大阪大学

◇参加大学数：44校

◇競技種目：20種目

出場クラブ	成 績
硬式テニス部	男子 ベスト 32 女子 ベスト 32
軟式テニス部	男子団体戦 1回戦敗退 女子団体戦 ベスト 8
ラグビー部	1回戦敗退
サッカー部	1回戦敗退
野球部	3位
バドミントン部	男子個人戦 5回戦敗退 女子個人戦 5回戦敗退
卓球部	男子団体戦 ベスト 16 男子個人戦 ダブルス ベスト 16 女子団体戦 3位 女子個人戦シングルス 準優勝
バスケットボール部	男子 2回戦敗退 女子 1回戦敗退
バレーボール部	男子 ベスト 8 女子 1回戦敗退
水泳部	男子 50m 自由型 3位 女子 100m 平泳ぎ 3位
弓道部	男子団体戦 6位 女子団体戦 15位
ハンドボール部	グループリーグ戦 3位 (4チーム中)
柔道部	男子個人新人戦 75kg級 準優勝 女子個人戦 準優勝
合気道部	団体 3位 (西日本コメディカル)
空手道部	男子組手団体 4位 男子組手個人新人戦 優勝 および 準優勝 女子形個人戦 4位
陸上部	男子 110m ハードル走 4位 女子やり投 4位
ゴルフ部	男子団体戦 9位 女子個人戦 23位 (74人中)
剣道部	男子団体 予選リーグ敗退
ヨット部	団体 14位



空手道部

医学科4年 内藤 由樹

とにかく楽しい西医体でした！皆で団結して作り上げた西医体。実力以上の結果を出すことができました。あの一体感、高揚感は僕にとってかけがえのないものとなりました。西医体に携わっていただいた皆様に心から感謝申し上げます。



柔道部

医学科6年 浅田 一星

今回このような結果を残すことができたのも、日頃からお力添えしてくださっているOB・OGの先生方のおかげです。この場をお借りして感謝申し上げます。先輩方から受け継いだものを、さらに“次へ”とつなげられるよう精進してまいりますので、何卒宜しくお願い致します。



野球部

医学科4年 大野 竜一郎

4年振り開催の西医体で、同率3位という結果を収めることができました。チームが一丸となって雰囲気盛り上げたことが勝利につながり、このチームで臨めてよかったと感じた大会でした。繰り上がりではありますが全西医体に出場することにもなったので、今まで以上に頑張っていきたいと思います。

令和4年度計画及び第3期中期目標期間に見込まれる業務実績

第3期中期計画の4年目にあたる令和4年度計画の業務実績及び第3期中期目標期間に見込まれる業務実績について、県の評価委員会による評価結果が通知されました。

令和4年度計画については、コロナ禍3年目となりコロナ対策を踏まえた計画の実施等により、当初計画で予定していた取組の中止は少なくなかったものの、実施できない、または十分な実施ができなかったために成果があらなかったなど影響を受けました。

令和4年度計画の業務実績に対する評価は、新型コロナウイルス感染症のような中期目標策定後の情勢の変化に伴う新しい事態が発生した場合に、その影響を考慮した評価が行われることとなっており、令和4年度の業務実績は、中期目標・中期計画の達成に関して、全体として「順調に進んでいる」と評価を受けました。

また、第3期中期目標期間（令和元～6年度）に見込まれる業務実績については、中期目標・中期計画期間終了時において、目標達成が困難であると見込まれる項目があるものの中期目標の達成状況が全体として「良好である」と評価を受けました。

令和5年度は、中期目標・中期計画期間も残すところあと2年となりました。第3期中期目標期間業務実績の見込評価において目標達成が困難であると見込まれる計画についても、第3期中期目標・中期計画の達成に向け、引き続き皆様のご理解と積極的なご参画をお願いいたします。

令和4年度 評価結果の概要

全体評価

令和4年度の業務実績については、**中期目標・中期計画の達成に関して全体として順調に進んでいる**と認められる。

新型コロナウイルス感染症の影響により、現場での実習、国外での研修が十分に行えないなどの影響があったが、オンラインやシミュレータを活用するなど代替的な取組の実施により中期計画・年度計画実現に向け取り組んだ。また、新型コロナウイルス感染症対策では、重点医療機関として、多数の専用病床の確保や重症患者の受入など、県民を守る「最終ディフェンスライン」として多大な貢献をした。

項目	評価	内容
I. 地域貢献<教育>	Ⅳ	中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
I. 地域貢献<研究>	Ⅴ	中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある
I. 地域貢献<診療>	Ⅳ	中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
Ⅱ. 教育	Ⅲ	中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる
Ⅲ. 研究	Ⅴ	中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある
Ⅳ. 診療	Ⅳ	中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
Ⅴ. 法人運営	Ⅳ	中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

項目別評価

I. 地域貢献<教育関連> 年度評価：Ⅳ

注目される取組（評価の高い事項）

◇特定行為研修を修了した看護師を増加させるため、特定行為研修を行い、急性期コース4名、在宅コース8名が研修を修了した。また、所属看護師への意向調査により、特定行為研修（急性期コース）受講志望者3名を発掘した。など

課題

◇大学院修士課程における専門看護師課程を2人が修了したものの、専門看護師数は第3期期間累計1人とどまり、目標（第3期期間累計2人）に達していない。

I. 地域貢献<研究関連> 年度評価：Ⅴ

注目される取組（評価の高い事項）

◇県、市町村、医療保険者が実施する健康推進事業への協力・連携を行うとともに、県や市町村行政の健康長寿に関する施策のエビデンス構築を支援した。など

I. 地域貢献<診療関連> 年度評価：Ⅳ

注目される取組（評価の高い事項）

◇DMAT*隊員7名（医師1名、看護師4名、業務調整員2名）を育成することで、新たにDMAT1チームを養成した。など
※ DMAT (Disaster Medical Assistance Team) : 災害派遣医療チーム

課題

◇新型コロナウイルス感染症第7波及び第8波の感染者数急増に伴い、高度救命救急センターを常に満床に近い状態で運用せざるを得なかったこと、クラスター発生等により周辺医療機関の病棟が閉鎖され、他院の救急受け入れ及び他院への転院が不可となる事例が多々発生したことにより、救急患者の受入が困難な状況に陥ったことがあった。このため、「中南和地域における重症以上の傷病者搬送事案において医療機関に受入の照会を行った回数4回以上の割合」及び「救急隊からの受入照会に対する受入率」の指標が低下した。

Ⅱ. 教育 年度評価：Ⅲ

注目される取組（評価の高い事項）

◇令和3年度に事業計画が選定された文部科学省「感染症医療人材養成事業」により整備したシミュレータを臨床実習等で引き続き活用し、事業計画を実行した。など

Ⅲ. 研究 年度評価：Ⅴ

注目される取組（評価の高い事項）

◇奈良先端科学技術大学院大学との横断的共同研究を推進するため、両法人の関係者で連携推進方策や連携活動等を議論するとともに、共同研究助成事業及び研究成果発表会を実施した。また、両法人の更なる連携活性化を進めるため、共同研究組織「連携活性化推進室」を設置した。など

Ⅳ. 診療 年度評価：Ⅳ

注目される取組（評価の高い事項）

◇患者満足度の一層の向上に向け、患者ニーズの把握及び職員の意識改善を図るため、調査を実施し、外来・入院ともに目標値を達成した。また、患者満足度調査及び声のポスト等の意見を基に、患者の利便性向上、患者サービスの向上のための施設の改修、運用の見直し等を実施した。など

課題

◇認定看護師の資格取得者は、第3期期間累計7人となったが、新型コロナウイルス感染症の影響により受講可能な教育機関が減少したため、目標（第3期期間累計11人）に達していない。

Ⅴ. 法人運営 年度評価：Ⅳ

注目される取組（評価の高い事項）

◇持続可能な安定した経営基盤確立のため、令和3年度決算状況についての動画を教職員へ一斉メールすることにより、法人内に周知情報共有した。加えて、令和3年度との比較分析等も含めた令和4年度決算見通しを役員会で議論した。など

に関する評価結果

第3期中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績 評価結果の概要

全体評価

中期計画の業務実績については、**中期目標の達成状況が全体として良好である**と認められる。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、対面授業や病院実習、国内外での研修が十分に行えないなどの影響があったが、オンラインやシミュレータを活用するなど代替的な取組の実施により中期目標・中期計画実現に向け取り組んだ。また、新型コロナウイルス感染症対策では、重点医療機関として、多数の専用病床の確保や重症患者の受入をはじめ、他の医療機関や福祉施設等への感染防止対策の助言・指導など、県民を守る「最終ディフェンスライン」として多大な貢献をした。

なお、今回、新型コロナウイルス感染症の対応により得られた経験や知見については、教育・研究・診療の各分野の今後の取組に寄与させるよう尽力されたい。

項目	評価	内容
I. 地域貢献<教育>	Ⅳ	中期目標の達成状況が良好である
I. 地域貢献<研究>	Ⅴ	中期目標の達成状況が極めて良好である
I. 地域貢献<診療>	Ⅲ	中期目標の達成状況が概ね良好である
Ⅱ. 教育	Ⅲ	中期目標の達成状況が概ね良好である
Ⅲ. 研究	Ⅴ	中期目標の達成状況が極めて良好である
Ⅳ. 診療	Ⅳ	中期目標の達成状況が良好である
Ⅴ. 法人運営	Ⅳ	中期目標の達成状況が良好である

項目別評価

I. 地域貢献<教育関連> 期間見込評価：Ⅳ

注目される取組（評価の高い事項）

◇県費奨学生自身の制度趣旨の理解を深め、医師としてのキャリアパス形成を支援し、離脱防止を図ることを目的に、奨学生との個人面談を随時実施。加えて新入生に向けた奨学生制度の説明会や県費奨学生総会を毎年開催。など

I. 地域貢献<研究関連> 期間見込評価：Ⅴ

注目される取組（評価の高い事項）

◇健康長寿に関する施策のエビデンス構築を支援する実践的研究について、市町村との共同研究や公的統計を用いた研究を行い、令和4年度までに県民健康増進支援センターの活動に関連した原著論文を28本公表。など

I. 地域貢献<診療関連> 期間見込評価：Ⅲ

注目される取組（評価の高い事項）

◇e-MATCH[※]を活用した救急コーディネーター事業の確立に向け、県、消防、附属病院医師参画の救急搬送及び医療連携協議会で効率的なe-MATCHの運用方法を検討。など
※ e-MATCH: 奈良県における救急医療管制システム

課題

◇地域医療が充実する臨床研究支援体制を確立するため、実現目標である臨床研究中核病院の承認取得に向け、年度計画を着実に実施し、臨床研究体制の充実を図ってきた。しかし、研究・安全管理体制や実施体制等の要件は充足したものの、研究成果をあげるためには時間を要することから、研究実績要件等の一部要件充足が困難と見込まれる。整備した研究体制を活かし、今後一層の取組が期待される。

Ⅱ. 教育 期間見込評価：Ⅲ

注目される取組（評価の高い事項）

◇モデル・コア・カリキュラムに即した授業の実施を徹底するため、臨床医学及び基礎医学すべての専門科目において、モデル・コア・カリキュラムを網羅。また、医学教育分野別評価でも指摘されている形成的評価の促進について、3年次と5年次に総

合問題形式の知識到達度試験を導入。学生の学習能力到達度を評価するとともに、各学年の試験やCBT[※]等とも相関分析を行い、成績不良者へのフォローアップとして活用。など

※ CBT (Computer Based Testing) : 臨床実習開始前(4年生時)に実施する共用試験

Ⅲ. 研究 期間見込評価：Ⅴ

注目される取組（評価の高い事項）

◇研究支援体制強化のため、研究の入口から出口までを包括支援する先端医学研究支援機構を新設。研究の入口支援として、研究計画の立案や外部資金の獲得を専門的に支援するリサーチアドミニストレーター2名を配置。また、臨床研究の支援体制強化のため、人を対象とする医学系研究に携わる者を対象に、研究倫理講習会を行うとともに、その内容を動画で配信。など

Ⅳ. 診療 期間見込評価：Ⅳ

注目される取組（評価の高い事項）

◇医療安全管理体制を強化するため、医療安全管理研修を計画的に開催。加えて、インシデント・アクシデント報告制度を活用した原因分析及び再発防止策の立案、安全管理に関する情報発信を実施。また、奈良県医療安全推進センターに対して、附属病院における取組事例や安全対策を中心に、毎年3件以上の患者安全対策を提案。など

課題

◇認定看護師数は、最終目標値に達しない見込みであるが、令和5年度に手術看護分野で1人、皮膚・排泄ケア分野で2人が受講し、令和6年度認定審査に合格すれば、第3期中期目標期間中に10人の増加が見込まれる。県内基幹病院として専門性の高いスキルや知識を有する看護師（特定行為研修修了者、認定看護管理者を含めた人数）は着実に増加している。

Ⅴ. 法人運営 期間見込評価：Ⅳ

注目される取組（評価の高い事項）

◇令和4年度より配偶者出産時の休暇と育児休暇の取得対象を全職員とし、出産関連の手当を申請する職員に制度を周知。今後、男性の育休取得率向上を目指し、取得しやすい環境づくり、雰囲気醸成に努める。など

評価結果は大学ホームページに掲載しています。

<https://www.narmed-u.ac.jp/university/gaiyo/kekaku-hyoka/gyomujoho2/gyoumujoho2.html>
(大学ホームページ > 大学概要 > 大学の計画と評価 > 業務に関する情報 > 業務実績評価結果)



1. 奈良先端科学技術大学院大学との連携

MBTは医工連携を一方の基軸としており、理工系学部との連携促進を如何に図るかは当初より重要な課題でした。このため、奈良県の理工系の最高学府である奈良先端科学技術大学院大学(以下「奈良先端大」とします)と本学との連携促進については、2018年の学長間の合意に基づいて連携活性化のための委員会を設置するなど積極的に取り組んできたところです。最近になって、両大学の連携に以下のような新たな進展がありました。

(1) 連携活性化推進室

2022年12月、「国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学と公立大学法人奈良県立医科大学との連携活性化推進室に関する覚書」を締結し、医工学融合分野等における連携促進のため、連携活性化推進室を設置することにより、共創による研究の高度化及び専門的知見やアイデアを集約する体制の強化を図りました。これを受け、本年3月に連携活性化推進室が両大学に跨がる組織として設置されました。

(2) 研究者交流会

8月29日、両大学の研究者の交流を促進するための研究者交流会が開催されました。奈良先端大との研究者交流会は2018年度、2019年度に開催され、共同研究や競争的資金の獲得等に繋がった事例を多く輩出しました。コロナ禍のため、間が空きましたが、今回の研究者交流会には、奈良先端大側21名、奈良医大側33名の先生方が参加されました。



開会挨拶する細井理事長



閉会挨拶する奈良先端大太田理事・副学長



研究者交流会の会場の模様

(3) 地域中核・特色ある研究大学強化促進事業提案

7月25日、奈良先端大は奈良医大を連携機関として、地域中核・特色ある研究大学強化促進事業に提案を行いました。地域中核・特色ある研究大学強化促進事業は、国公立大学が研究力強化に向けて資源を集中投下して進める取り組みを支援するための取り組みです。

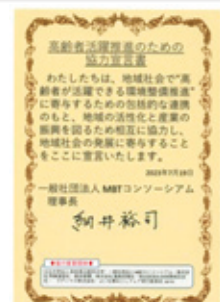
支援は1件当たり最大55億円で、支援期間は5年間を予定しております。今回の提案は、「RX(リサーチトランスフォーメーション)サイクルによる研究を進化・発展させ、外部機関の参画を得て新しい学術研究の成果を出していく」という内容で、12月に採否が公表される予定となっております。

(4) メディルクス研究センター

奈良先端大は「メディルクス研究センター」を概算要求しており、本学はこの構想に協力しております。メディルクス研究センターは奈良先端大のメディルクス・イニシアティブを実現するためのセンターで、①医療(Medi)を光(Lux)らせる最新技術の研究開発、②光技術&AI&生命科学の共創による医療現場の変革、③地域連携・産学連携の実績に基づく研究チームの集約と支援体制の構築を目指しています。

2. 高齢者活躍推進のための協力宣言

7月19日、東京都の日本記者クラブにおいて、奈良医大とMBTコンソーシアムは、全国の信用金庫でつくる「よい仕事フェア実行委員会」、(株)時事通信社、東京新聞、(株)福島民報社、明治安田生命保険相互会社、ラヂウス(株)の8団体で、高齢者活躍推進のための協力宣言を締結しました。この協力宣言は、地域社会の“高齢者が活躍できる環境整備推進”に寄与するための包括的な連携のもと、地域の活性化と産業の振興を図るため、各々が有するネットワークを活用して相互に協力し、地域社会の発展に寄与することを目的とするものです。



高齢者活躍推進のための協力宣言書

ハゲタカジャーナルにご注意ください

ハゲタカジャーナル (悪徳雑誌) とは

近年、論文をオンライン上にて無料で公開するオープンアクセス誌 (以下、OA 誌) が世界規模で急速に普及しています。公的な研究資金による研究成果は、誰でも無料で見るようにすべきという観点が注目されており、OA 誌普及を更に加速させるファクターとなっています。OA 誌は著者が論文投稿料を支払います。読者は購読料不要、即ち無料で利用することができる仕組みです。しかし、この形式を悪用し、査読を適正に行わず OA 誌を創刊して論文投稿料による収益を目的とする学術的に粗悪なジャーナルが存在します。英語名では Predatory Publishing といい、ハゲタカジャーナル、悪徳雑誌等と訳され、大きな問題となっています。投稿者は論文が比較的容易にアクセプトされるので研究業績を稼ぐことができるメリットがあり、出版社は電子的に投稿された論文をオンライン上で公開することで手間と経費をあまりかけずに売り上げを得ることができるメリットがあります。したがって、両者に相互利益があるため、一筋縄ではいかぬ問題となっています。

ハゲタカジャーナルに投稿することの危険性

次に列挙する危険性があります。

- ・ 高額な論文投稿料を請求される。
- ・ 論文の撤回が認められず、一度出版された論文は他誌へ投稿できない。
- ・ 学術文献データベースに掲載されないため、投稿論文が認知されない。
- ・ 研究成果や投稿者に対する信頼性を損なう結果を招く。

ハゲタカジャーナルかどうかを見分けるポイント

● 出版社の公式サイトを見る

論文投稿を促すメールにある URL リンクではなく、Web 検索で公式サイトを確認することを勧めます。編集責任者や編集委員会が明記されていない、査読期間が異様に短い、ウェブサイトの体裁が不自然等は注意です。

● Journal Citation Reports <https://jcr.clarivate.com/jcr/home>

Web of Science Core Collection から取得した出版・引用データを集約し、出版社に中立な立場からジャーナル統計を提供しています。掲載誌の選定基準があり、掲載されていることが雑誌の一定評価を担保していると捉えることができます。雑誌を検索すると、Journal Impact Factor (以下、JIF) や Journal Citation Indicator (以下、JCI) 等が付与されているか確認できます。Journal Citation Reports の使い方は学報 85 号にて紹介しているので、こちらもご覧ください。JIF は学術雑誌に掲載された過去 2 年分の論文がその直後の 1 年間にどれくらい引用されたかを示す指標であり、JCI は分野間の雑誌を比較することができるよう正規化された指標です。どちらも数値が高いほど影響力がある雑誌と評価することができます。JIF や JCI は最新の数値が付与されているかについても要確認してください。途中で掲載が中止され、JIF 等の対象外となったジャーナルも存在しています。

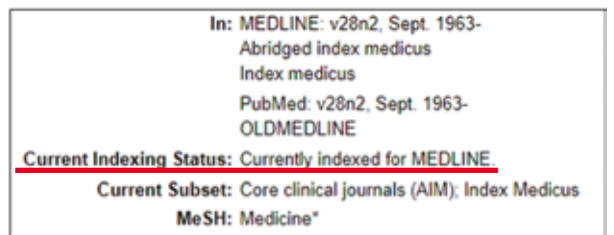
● PubMed <https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov>

PubMed を構成する MEDLINE には厳しい選定基準があり、こちらも雑誌の評価の拠り所となります。ホーム画面の "Journal" から NLM Catalog ヘルプリンクされます。NLM Catalog で雑誌名を検索し、詳細画面で "Current Indexing Status" が "Currently indexed for MEDLINE" と表記されているものは MEDLINE に掲載されています。一方、MEDLINE に掲載されていないジャーナルは "Not currently indexed for MEDLINE" と表記され、PubMed Central (以下、PMC) 掲載のみとなります。この PMC 掲載のみのジャーナルが NLM Catalog に多く含まれている点には留意してください。

ホーム画面 > Journal



詳細画面



● Directory of Open Access Journals <https://doaj.org>

Directory of Open Access Journals (以下、DOAJ) はオープンアクセスの種類や Web サイトの存在等一定の審査基準を満たした全分野の OA 誌を収録しています。OA 誌のホワイトリストとして活用できます。



● Think Check Submit <https://thinkchecksubmit.org/>

学術出版に関わる組織が連携し、投稿先の雑誌の信頼性を評価することチェック項目リスト (あなたや同僚はそのジャーナルについて知っていますか、そのジャーナルに投稿された論文を以前読んだことありますか等) を提供しています。日本語訳版も公開されています。

論文投稿先選定に関して、ご不明な点は附属図書館までお気軽にご相談ください。

【参考】

澤田 健「いまさら聞けない論文作成のキホン 投稿するジャーナルの選定と査読の流れ 悪徳雑誌 (ハゲタカジャーナル) の見分け方」臨床婦人科産科 2020 74 (11) P.1126-1134 ★電子ジャーナル (医書.jp) ご利用いただけます★

日本学術振興会「科学研究費助成事業 オープンアクセス」https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/01_seido/08_openaccess/index.html

京都大学図書館機構「粗悪学術誌に関する注意喚起」<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/content/0/1387404>

図書館ウェビナー 2023/2/22 どうする投稿先選び

国際交流センターだより vol.13

「第7回 英語で学ぶ医学・看護学セミナー」（医学科2年生対象）を開催しました

免疫学 教授 伊藤 利洋

本学が掲げる英語教育の充実を推し進める中、コロナ禍にて海外との往来や交流が困難となりました。そのような状況下においても学生が海外との交流の機会を持つことができるよう、英語で学ぶ医学・看護学セミナーはWebにて始まりました。そして今回は、第7回にして初めて奈良医大での現地開催にて、連携大学でもある米国ミシガン大学の鎌田信彦先生に本学にお越しいただき、「医学研究と医学研究留学のススメ」と題して、医学研究ならびに研究者として成長するための海外研究留学の重要性についてご講演頂きました。医学科2年生は海外を含めたりサーチクラークシップを控えていることもあり、非常に活発な英語での質疑応答が行われました。本セミナーを通して、本学の医学生・看護学生が臨床英語・国際化の重要性をさらに認識し、海外に目を向けるきっかけとなればと思っております。講演いただきました鎌田先生に感謝申し上げますとともに、引き続き皆様方には本学の英語教育にご理解・ご協力賜りますようお願い申し上げます。



ミシガン大学消化器内科 准教授
大阪大学免疫学フロンティア研究センター 教授

鎌田 信彦

Thank you for giving me the opportunity to speak at Nara Medical University this past July. I enjoyed visiting this historic city and meeting with faculty and students at the university. I gave a lecture on "How to conduct biomedical research" and "Pros and Cons of studying abroad as a biomedical researcher." Summer in Japan was extremely hot, but I felt the students' enthusiasm was even hotter than outside. During my lecture, students actively participated and asked many questions in English. In my experience, this is not very common. In Japan, students are often hesitant to speak English in public. In other words, it is evidence that medical English education at Nara Medical University is taking root in the students. I strongly hope that my lecture will be one of the reasons for students to become interested in basic research and study abroad.



学生の声

医学科2年 和出 陽南

どのような思考や計画を経て研究を進めていくのかについて、鎌田先生が実際された研究を例に話されていて、私自身が今後も研究活動を続けていくうえで非常にためになるご講演でした。海外で研究をする人はもちろん、日本にいても先行研究を調べる際に英語論文を読む必要があるため、研究活動に英語は不可欠だと思います。将来の研究活動を見据えて、英語学習を怠ってはいけないと改めて身が引き締まりました。



「第8回 英語で学ぶ医学・看護学セミナー」（医学科1年生対象）を開催しました

未来基礎医学 准教授 森 英一郎

ルクセンブルク大学の Jens Schwamborn 先生とは、コロナ禍前の2019年の春頃に京都の国際学会で初めて出会いました。きっかけは、私達の研究成果と類似の内容がプレプリントとして bioRxiv に公開になったことです。その内容を見て、責任著者である Schwamborn 先生に連絡を取ったところ、私達の研究成果に興味を持って下さり、そこから共同研究に発展しました。2021年からは、本学の招聘教授に御就任頂き、様々な学術的交流に御貢献頂いております。この度、ポストコロナで、4年振りに日本を訪問される機会に、本学での講演を頂くことができました。医学科1年生に対して、パーキンソン病の病態モデルを用いた研究成果についてご紹介頂き、学生からの質問にも丁寧に答えて頂きました。



ルクセンブルク大学 ルクセンブルクセンター システム生物学 発生細胞生物学 教授

Jens C. Schwamborn

I am truly appreciative for the wonderful chance to address the audience at Nara Medical University. My recent visit to Nara has left an indelible impression on me, and I am genuinely thrilled about the potential it holds for forging meaningful collaborations ahead. The enthusiasm and dedication exhibited by the students during my time there were nothing short of remarkable. The quality of their engagement and the insightful discussions we shared underscore the promising future that lies ahead.

Looking forward, I am particularly excited about the prospect of welcoming students from Nara University to my lab at the Luxembourg Centre for Systems Biomedicine. Together, we can embark on a journey of advanced learning and hands-on experience, enhancing their skills in cutting-edge cellular models for in vitro disease modeling. This cross-cultural exchange of knowledge is bound to enrich both institutions and contribute to scientific progress in a profound manner.

Once again, I extend my heartfelt gratitude for the warm reception and the opportunity to connect with the brilliant minds at Nara Medical University. I eagerly await the chance to solidify these nascent ties into flourishing collaborations that will undoubtedly yield innovative outcomes.



学生の声

医学科1年 原田 晶

「病気をシステムとして捉えたい」このように感じた。生物は驚異的に複雑だが、数学的記述による原理解明で直感的な理解が可能なのだ。そして生体内システムは、講義で紹介されたような病態生理学的プロセスの再現による疾患メカニズムの研究を積み重ねて解明されるものだろう。将来、国際的な環境で革新的な医療の土台になる研究を考えているが、この講義で言語の壁を体感した。今の学問を将来の糧にすべく研鑽を積んでいきたい。



国際交流センターだより vol.13

海外リサーチ・クラークシップ成果報告：ジャーナルに掲載されました

海外リサーチ・クラークシップ（2年次）参加後も研究活動を続けている本学学生の研究成果をご紹介します。

2019年度、アメリカ・テキサス大学の藤川ラボで、原田安美さんが参加した研究が、論文として発表されました。ご指導を賜りました関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

Molecular Metabolism

- ・論文タイトル：VMHdm/c^{SF-1} neuronal circuits regulate skeletal muscle PGC1- α via the sympathoadrenal drive
- ・Publication：24 August 2023
- ・DOI：10.1016/j.molmet.2023.101792

医学科6年 原田 安美

2年次のリサーチクラークシップでテキサス大学サンアントニオ校にて行った研究について、「視床下部ニューロンの骨格筋制御とその機序」に関する論文の共著者としてご掲載いただきました。本プロジェクトを通して、藤川先生には多くのことを教えていただき、その中に伝えることの大切さがあります。何か新しいことが分かった時も或いは上手くいかなかった時も、その事実をわかりやすく伝えること、伝えなければ意味を為さないことを学びました。今後医師として働く上で広く通ずる部分があり、ずっと大切にしたいと思います。最後に、ご指導いただいた藤川先生、森先生、国際交流センターの皆様、この場をお借りし厚く御礼申し上げます。今後もこの経験を活かし精進して参ります。



MESSAGE

未来基礎医学 准教授 森 英一郎

原田さんは、海外リサーチのプログラムでテキサス大学の藤川先生の研究室で研究に従事する経験を得ました。事前にしっかりと藤川先生とコミュニケーションを取り、現地で取り組むプロジェクトについての理解を深めた上で現地入りしていました。藤川先生の研究室では、遺伝子改変マウスを用いて、脳による代謝制御の研究に取り組んでおり、現地では新しいプロジェクトの立ち上げに関わる経験を得ることができました。こうして、関わったプロジェクトが論文として形になる経験は、今後の原田さんのキャリアの中で、大きな糧になると思います。原田さんの今後益々の活躍を期待しております。また、学生の受け入れと御指導を頂いた藤川先生に、厚く御礼申し上げます。



テキサス大学サンアントニオヘルスサイエンスセンター 助教授 藤川 哲平

Our lab had the privilege of hosting Ami at the beginning of 2020 as an exchange student, sponsored by the International Research Clerkship Program. Ami proved to be an exceptional student, demonstrating self-motivation and a remarkable ability to grasp concepts quickly. She displayed an instant understanding of the underlying rationale behind our experiments. The paper to which Ami contributed demonstrates that the hypothalamic neurons are key for the regulation of skeletal muscle physiology. Briefly, our previous studies have shown that one of the hypothalamic neuronal groups, VMHdm/c^{SF-1} neurons, is key for metabolic benefits of exercise. In the current study, we used optogenetics to manipulate one of the hypothalamic neuronal groups, VMHdm/c^{SF-1} neurons. Activation of VMHdm/c^{SF-1} neurons recapitulates some skeletal muscle changes seen after exercise. Ami performed many biomolecular experiments including qPCR. She also helped to generate new genetically-engineered materials and we hope we can publish these data as well. Congratulations to Ami on her achievements, and we extend our best wishes for her promising future as both a physician and a scientist.



「第4回 外国人留学生との交流会」 (6月28日)
 「第5回 外国人留学生との交流会」 (9月14日) を開催しました

医学科5年 鈴木 慧士

外国人留学生との交流会「Global Hour」は奈良医大留学生支援団体 NOFIS (NMU Organization For International Students & doctors) が主体となり、国際交流センターの協力のもと行われており、本学の学生や教員など誰でも参加できるイベントです。Global Hour では留学生と日本人の双方が種々のテーマについて自由な形式でプレゼンを行っています。様々な価値観や背景をもつ学生同士が意見を交えて視野を広げることで、ただ会話するだけでは得ることの難しい、互いの社会や文化、多様性に対する理解が徐々に涵養されていると感じます。

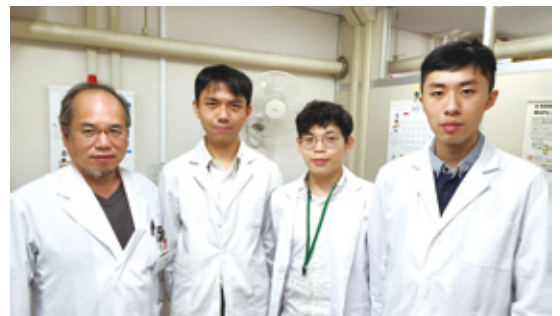
NOFIS は 2023 年 4 月に附属病院で実習を行う留学生や外国人医師を支援し交流を深めることを目的に、1～5年にわたる学生主体で発足し、留学生の歓迎会やキャンパスの案内、Global Hour などの企画、小旅行などを行っています。また、このような交流だけではなく、NOFIS は実習を終えた留学生にアンケートを通して実習の内容や充実具合などの聞き取りも実施しています。附属病院あるいは県内でほとんどの実習期間を過ごす私達にとって、彼らの意見は非常に新鮮で貴重なものであると捉えています。目下本邦では臨床参加型へと実習を変革させる流れが起こりつつありますが、アンケートの結果を総括し大学や病院へ還元することで、留学生だけでなく私達の実習の改善にも大きく寄与すると考えています。本学がより世界へ開かれた大学になるよう NOFIS は活動を続けていきたいと思えます。



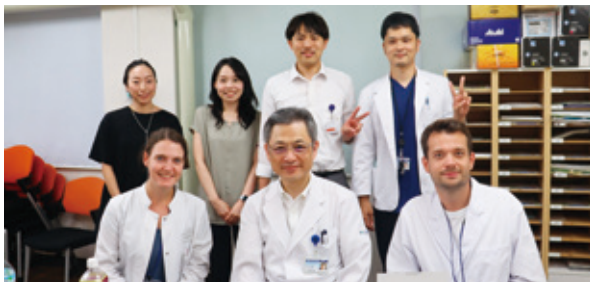
2023年7月～9月に本学附属病院にて臨床実習を行った外国人学生を紹介します



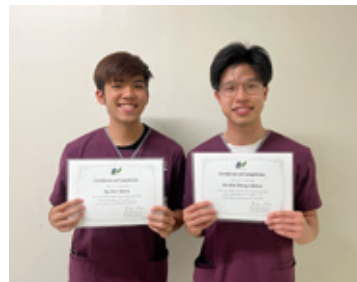
Tran Hoang Bao Ngoc (ウッチ医科大学・ポーランド)
 7/10-7/21 放射線・核医学科



Ho Hiu Chun, Chan Ching Kit, Wong Ho Ching
 (香港大学) 7/31-8/4 歯科口腔外科



Susan Trümpelmann (ヴェストファーレンヴィルヘルム大学・ドイツ)
 7/3-9/24 心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科・小児外科・乳腺外科、整形外科
 Lorenz Jenter (ハノーファー医科大学・ドイツ)
 7/17-9/10 消化器外科・小児外科・乳腺外科



Ng Cher Hsien
 Yin Kai Sheng Ashton
 (南洋理工科大学・シンガポール)
 9/25-10/6 循環器内科



Schwarz, Jan Niklas
 (フィリップマールブルク大学・ドイツ)
 8/28-9/27 泌尿器科

先端医学研究支援機構だより

研究力向上支援センターからのお知らせ

1 令和5年度科研費獲得セミナーを開催しました

(学内専用ホームページ) 研究推進課>公的研究費について>科学研究費助成事業(科研費)>科研費申請支援事業>科研費獲得セミナー

令和6年度科学研究費助成事業に係る科研費獲得セミナーを2回にわたって開催しました。

第1回は7月11日(火)に主に看護学科系で各研究種目に応募予定の方向けとして、在宅看護学 小竹久美子先生に「研究助成金を継続して獲得する方策—3度続けて基盤研究(B)を獲得するまでの道程—」と題してご講演いただきました。

第2回は7月20日(木)に主に医科学系で各研究種目に応募予定の方向けとして、薬理学 中平毅一先生に「申請書を書くときに気をつけたこと」と題して、公衆衛生学 明神大也先生に「科研費申請書の執筆経験談(ドライな研究版)」と題してご講演いただきました。会場参加者からは審査に対する貴重な意見も出、大変有意義な会となりました。

各先生からはこれまでに獲得された科研費のご自身の経験に基づいた科研費申請書作成のテクニック、研究計画の立て方等について具体的な事例を示しながら貴重なお話をいただきました。

また、各回、研究力向上支援センター URA 上村陽一郎特命准教授より「令和6年度科学研究費助成事業への応募について」と題して近年の科研費の動向も含め、全般的説明と注意事項の説明をさせていただきました。

会場やオンライン参加を含めて多数ご参加いただきました。講演の内容は、研究推進課の学内専用ホームページで視聴が可能ですので、当日参加されていない方は是非ご覧ください。



在宅看護学 教授 小竹久美子先生



薬理学 准教授 中平毅一先生



公衆衛生学 講師 明神大也先生

2 若きトップサイエンティストの挑戦(リサーチストーリー) vol.10、vol.11 を掲載しています

(本学ホームページ) >研究力向上支援センター>若きトップサイエンティスト

当シリーズでは本学で国際的に活躍されている若手の研究者の方々にお話を伺い、学内を始め広く学外にも紹介しています。Vol.10では循環器内科学 医員(国立循環器病研究センター オープンイノベーションセンター 上級研究員:国内留学中)金岡幸嗣朗先生の論文「Features and outcomes of histologically proven myocarditis with fulminant presentation.」【Circulation】:「組織診断された劇症型心筋炎患者の特徴と転帰」、Vol.11では解剖学第二講座 講師 田中達英先生の論文「Dermal macrophages set pain sensitivity by modulating the amount of tissue NGF through an SNX25-Nrf2 pathway」【Nature Immunology】:「皮膚マクロファージは組織NGFレベルをSNX25-NRF2経路によって制御し、痛みの感度を調節する」を紹介しています。お二人にインタビューさせていただき、先生方の論文の概要や、研究を進めてこられた動機、プロセス、今後の抱負などについてお話を伺いました。



循環器内科学 医員 金岡幸嗣朗先生



解剖学第二講座 講師 田中達英先生

これらの内容は、研究力向上支援センターのホームページに掲載しておりますので是非ご覧ください。

研究力向上支援センターでは、この他様々な情報を発信しております。今後もメルマガ「科研費ニュース～Go for it! KAKEN～」や研究力向上支援センターのホームページでご紹介をしていきますのでご期待ください。

働き方改革だより

◎令和4年度職員満足度調査の結果がまとまりました

調査（実施期間 令和5年2月27日～3月13日）の結果について、一部をご紹介します。

回答率

回答率は全体で2.4%**上昇**
臨床研修医の回答率が**大きく改善**

回答率	R3	R4
全体	82.9%	85.3%
臨床研修医	49.5%	81.9%

臨床研修医
32.4%上昇

ワークライフバランスについて

全体では、**約40%が満足・ほぼ満足**と回答
研修医の満足度が12%**上昇**

満足+ほぼ満足と答えた割合	R3	R4
全体	40.1%	40.4%
臨床研修医	46.8%	58.8%

ワークライフバランス向上に向けた取組

特別休暇や職務専念義務免除の対象が拡充されました（令和5年4月）。

対象：正規職員、契約専門職員、嘱託職員、医員及び臨床研修医、時間雇用職員、教室職員

職員の皆さんの健康管理やワークライフバランスの向上に向け、適宜制度の見直しを行っています。

令和5年3月31日人事課通知「非正規職員の特別休暇等の拡大等について」参照

特別休暇

・結婚休暇	7日を超えない期間
・妊婦健診	週数に応じて必要と認められる期間
・妊婦の通勤緩和	1日1時間以内
・子の看護休暇	5日/年
・介護休暇	5日/年
	等

職務専念義務免除

人間ドック等の受診に必要な時間について勤務が免除されます

仕事のやりがいについて

「現在の仕事にやりがいを感じている」の設問に**約66%がとても・ややそう思う**と回答
対して「やりがいを感じられない理由」として、
「給与が見合っていない（52.5%）」「業務量が多い（43.5%）」という結果でした。

業務量の負担軽減に向けた取組（タスクシフト）

医師の時間外労働上限規制・勤務間インターバル順守・宿日直体制の運用を適切に行うため、各職種の負担を減らし、院内全体として働き方の見直しを進めています。

医師のタスクシフト

看護師によるルートキープ、放射線技師による造影剤注射・画像構築、
臨床工学技士による麻酔補助、医師事務作業補助者の配置 等

看護師のタスクシフト

障害者雇用スタッフによるベッドメイク、夜間看護補助の導入 等



満足度調査の結果は学内ホームページに掲載しております。ご協力ありがとうございました。
【学内専用>人事課>委員会・組合等>働き方改革推進委員会】

未来への飛躍基金だより

紺綬褒章伝達式を行いました

未来への飛躍基金にご寄附いただきました坂本光章氏（医学科 H10 卒業）に対し、紺綬褒章が授与されました。8月1日に本学において紺綬褒章伝達式を行い、細井理事長・学長から褒章および章記を伝達するとともに、ご寄附への感謝の気持ちをお伝えしました。当日は、整形外科科学講座から谷口准教授と清水学内講師がお祝いに駆けつけてくださり、伝達式に趣を添えていただきました。

本学は、内閣府賞勲局から紺綬褒章「公益団体」として認定を受けています。基金に500万円以上のご寄附をいただいた方（個人）及び1,000万円以上のご寄附をいただいた団体は、紺綬褒章の授与の対象となります（分納可）。授与申請については本学の取扱基準に基づいて行いますので、詳しくは総務広報課までお問合せください。



後列左から谷口准教授、清水学内講師、前列左から細井理事長・学長、坂本光章氏

基礎医学棟第2講義室の机・椅子を更新しました

学生の学習環境向上を目的に、未来への飛躍基金を活用して、基礎医学棟第2講義室の机と椅子の更新を行いました。

机の天板や椅子の背もたれが明るくなり、講義室全体が新しくなったような印象です。座面についても、以前から「固い」等の意見があったため、ウレタン製のクッションを採用しました。

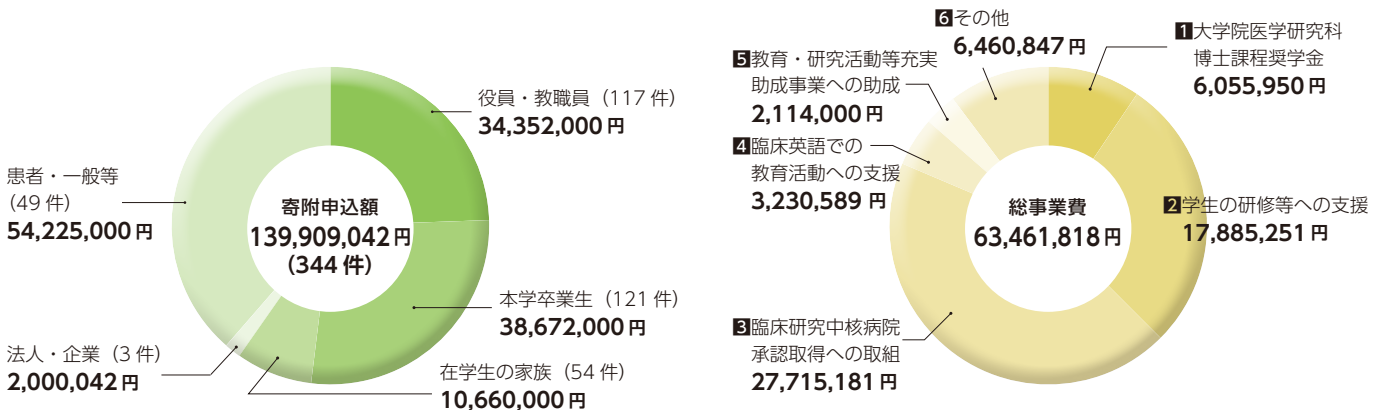
飛躍基金を通じてのご支援について、厚く御礼申し上げます。



講義室の様子

令和4年度実績のご報告

平素より未来への飛躍基金への多大なるご支援をいただき誠にありがとうございます。皆様からのご寄附は、教育・研究及び診療活動、大学や附属病院の施設整備への支援等、幅広く活用させていただいております。



事業の概要

1 大学院医学研究科博士課程奨学金

入学相当額及び授業料相当額を貸与。

2 学生の研修等への支援

- ・国内外の研修への支援 ・学生の支援を行う講座への活動費
- ・医師・看護師・保健師の国家試験模試費用の支援
- ・クラブ活動への支援 ・看護学生への実習着の授与 等

3 臨床研究中核病院承認取得への取組

本学では申請に向けて承認要件とされる体制整備を進めており、必要とされる医師主導治験と特定臨床研究の新規実施件数の確保を目指して推進を図っています。

4 臨床英語での教育活動支援

医学・看護学の準備教育としての臨床英語の強化を図るための講座活動費を助成。

5 教育・研究活動等充実助成事業

各所属で実施している教育・研究活動事業への助成。

6 その他

健康長寿イベント助成、英文校正費助成、事務費等。

【奈良県立医科大学 総務広報課】

TEL : 0744-22-3051 (内線 2803) E-mail : hiyakukikin@narmed-u.ac.jp

【未来への飛躍基金 HP】 <https://hiyakukikin.narmed-u.ac.jp> または「未来への飛躍基金」で検索！



看護部の紹介

チェンマイ大学病院看護師研修を受け入れました

看護実践・キャリア支援センター 看護師長 吉川 紀子

本学とタイのチェンマイ大学との学術交流協定により実施している交換研修が2年ぶりに再開となり、7月10日～21日の2週間、チェンマイ大学から2名の看護師長が来日されました。看護実践・キャリア支援センターでは各研修テーマに沿った実習調整に尽力し、B8病棟、感染管理室、NICU、IVRセンター、放射線治療室・化学療法室・緩和ケアセンター、看護部情報管理、心不全外来、がん相談支援センター、高度救命救急センターで研修をさせていただきました。研修生2名の学びとつながりだけでなく、お互いの組織体制や看護について情報交換することで、私達も知見を広げる機会となりました。

今回の学術交流研修に際し、ご協力いただきました皆様方には深く感謝致します。なお、来年はチェンマイ大学での研修となります。ご興味のある方は参加をご検討ください。



B棟8階

放射線治療室 化学療法室 緩和ケアセンター
看護主任 梅岡 京子

タイ・チェンマイ大学病院看護師のPuttachat Somanaさん(病棟師長) Nuttaphoom Nuchpongさん(外来化学療法室師長)が当院での研修を受けられました。お二人は緩和ケアやがん看護に関心をお持ちであり、7月18日に緩和ケアセンターと外来化学療法室を見学されました。設備やチーム医療の実際を見学していただく以外にも、両国の「超過勤務問題」「保険診療の相違と受けられるサービスの違い」や「Advance Care Planningで抱えている課題」等について情報交換しました。言葉の壁はありましたが、非言語的コミュニケーションを多用しながら、看護師同士で楽しく有意義に学ぶ時間を過ごすことが出来ました。



緩和ケアセンターでの研修

第2回奈良医大特定行為フォーラムを開催しました

救急他科外来 リソースナースセンター 看護師長
クリティカルケア認定看護師 小川 哲平

7月29日に「第2回奈良医大特定行為フォーラム」を開催しました。

特定行為研修が始まり約7年が経過し、全国で4832名(令和4年3月現在)の修了生が活躍しており、当院の研修施設でも研修修了者は年々増加しています。国は「2025年に向けて10万人を養成する」という目標を掲げており、まだまだその数は目標の5%にも届いていない現状があります。今回のフォーラムでは、厚生労働省の後藤友美先生はじめ、特定行為研修修了生(以下、特定看護師)が多数ご活躍されている滋賀医科大学特定行為研修センター長の北川裕利先生、千葉大学医学部附属病院の新井加代子先生にご登壇いただきました。特定行為研修制度や特定看護師活動の組織としての推進についてご講演いただき、組織の中での特定看護師の役割をより明確化することで、特定看護師の増加を図り、特定看護師の推進のための組織的支援について学べる貴重な時間となりました。また当院も含め、県内で活躍されている5名の特定看護師の方々に、現場でどのように活動されているかなどを発表いただき、ご参加いただいた方々と意見交換を行いました。まだまだどの施設においても課題や問題点も多くある中、当院の特定看護師の活動が患者さんの治療・ケアに貢献できるよう、より一層努力していきたいと思っております。

2024年4月から「医師の働き方改革」が始まり、特定看護師にタスク・シフト/シェアされることが予想され、多くの病院で特定看護師の育成が急務となっています。組織として、育成・活動の方針を明確にし、特定看護師の活動を推進していきたいと思っております。

最後になりましたが今回のフォーラムにご参加ご協力いただいた皆様に、この場をお借りして深く御礼申し上げます。



吉川病院長開会式



基調講演の様子

「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」が変わっています

医療情報部 部長 玉本 哲郎

みなさんは、「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」が大幅に改定されたことを知っていますか。医療情報システムの安全管理に関するガイドラインは、厚生労働省が制定したガイドラインで、医療情報システムの安全管理や民間事業者等が行う書面の保存等における情報通信の技術の利用に関する法律（e-文書法）等の法令等への適切な対応を行うため、技術的及び運用管理上の観点から所要の対策を示したものです。平成17年3月に初版が策定され、以降、技術の進展及び制度改定などに対応する観点から改定を行ってきたものです¹⁾。概要については図1に示す通りです。令和5年5月に大幅な見直しが行われ、Ver.6.0では、本ガイドラインの内容の理解を促進し、医療情報システムの安全管理の実効性を高める観点から、概説編と各論を経営管理編、企画管理編及びシステム運用編の3つに分け、各編で想定する関係者に求められる遵守事項及びその考え方を示すとともに、Q & A等で現状選択可能な具体的技術にも言及を行っています。その他、サイバー攻撃及びクラウドサービス利用の普及等を踏まえ、医療機関等に求められる安全管理措置を中心に内容面の改定を行っています¹⁾。Ver. 5.2からVer. 6.0への改定の方針は図2に示す通りであり、①全体構成の見直し、②外部委託、外部サービスの利用に関する整理、③情報セキュリティに関する考え方の整理、④新技術、制度・規格の変更への対応の4つがポイントになっています。①の全体構成の見直しでは、医療機関等の様々な規模と多様なシステム構成・サービス提供形態を踏まえ、安全な情報資産管理を基礎とし、意思決

定・方針策定・戦略立案（Governance）、企画管理・システム運営（Management）、管理方法・運用手段（Control）の3つの視点で整理しています²⁾（図2、図3）。②外部委託、外部サービスの利用に関する整理では、クラウドサービスの特徴を踏まえたリスクや対策の考え方や医療機関等のシステム類型別に対応した責任などの整理を行い、③情報セキュリティに関する考え方の整理では、ネットワーク境界防御型思考／ゼロトラストネットワーク型思考・災害、サイバー攻撃、システム障害等の非常時に対する対応や対策などの整理を行い、④新技術、制度・規格の変更への対応では、(1) 本人確認を要する場面での運用（eKYCの活用）、(2) オンライン資格確認の導入に必要なネットワーク機器等の安全管理措置、(3) 新たなネットワーク技術（ローカル5G）の利用可能性、利用場面、(4) 医療情報の共有・提供に関連する法令等の規定や技術・規格の動向への対応を行っています（図3）。実際に想定されるシーンについては、Ver. 6.0 主な改定ポイント（概要）に示す通りです³⁾（図4）。

今回の改定では、医療機関でも、経営層の積極的な関与が示されたことが重要な点であり、当院でも新ガイドラインに対応した組織体制づくりと安全管理のレベルアップが必要と考えます。

参考資料

- 1) 医療情報システムの安全管理に関するガイドライン第6.0版 概説編 <https://www.mhlw.go.jp/content/10808000/001102570.pdf>
- 2) 医療情報システムの安全管理に関するガイドラインの概要及び主な改定内容 <https://www.mhlw.go.jp/content/10808000/001102596.pdf>
- 3) 医療情報システムの安全管理に関するガイドライン 第6.0版主な改定ポイント（概要） <https://www.mhlw.go.jp/content/10808000/001102597.pdf>

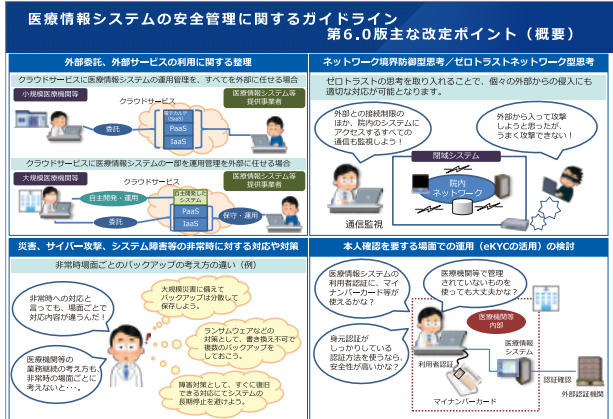
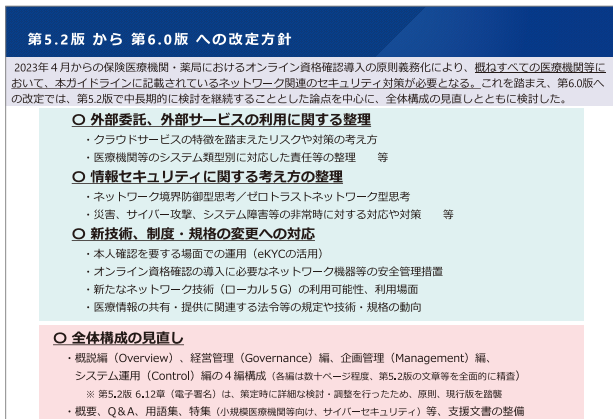
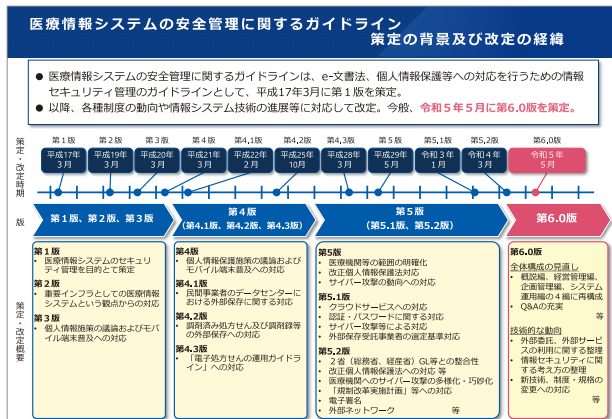
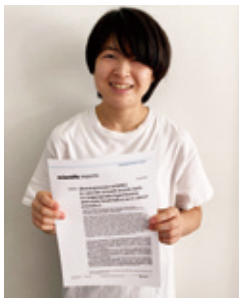


図1 図2
図3 図4

5.12 論文がアクセプトされました

医学科6年 時永 志帆

この度、共著者となった論文が学術雑誌である「Scientific Reports」に掲載されました。本論文はGrk2の過剰発現がCS1急性心不全の発症に関与するメカニズムを明らかにしたものです。紆余曲折ありましたが、循環器内科学で約4年間携わってきた研究が論文という形で結果を残せたことに喜びを感じ、また、基礎研究が医学の発展に貢献する課程に関われたことは自分にとって大きな学びとなりました。最後になりましたが、指導して下さった循環器内科学の研究室の皆様にご感謝いたします。ありがとうございました。



論文名: Overexpression of GRK2 in vascular smooth muscle leads to inappropriate hypertension and acute heart failure as in clinical scenario 1

雑誌名: Scientific Reports

7.6 奈良臨床漢方医学セミナー (産婦人科領域編) を開催しました

大和漢方医学薬学センターでは漢方診療の普及啓発活動の一環として、医療従事者を対象に奈良臨床漢方医学セミナーを定期的に開催しています。

今回は、「産婦人科領域のQOLを考慮した漢方治療」をテーマに、横山良仁先生(弘前大学大学院医学研究科 産科婦人科学講座・教授)にご講演いただきました。

講演では、がん患者が経験する神経疼痛障害に対する漢方治療について研究結果をもとに解説されました。

質疑応答では、普段の診療での漢方使用方法や、継続使用についての質問がありました。

参加者の方々が熱心に聞いておられる様子が伝わるセミナーとなりました。



(座長) 本学産婦人科学講座 木村教授



弘前大学 横山教授

7.7 ~ 7.9 JUEMUN (日本大学英語模擬国連) 2023に参加

神戸で開催されたJUEMUN(日本大学英語模擬国連)2023に今年も本学の学生が参加しました。今年は医学とも関係の深いUNICEFを舞台とし、「子供と青少年の権利について」を議題に3日間討論を重ねました。本学からは10名の学生が参加し、唯一の医科大学チームとして医学的な視点を取り入れながら日本のみならず世界中から集まったあらゆる背景をもつ学生と共に決議案の作成に取り組みました。竹下沙希(医学科6年)にとっては今年が最後となるJUEMUNで、議長(Chair)に推薦され、JUEMUNを運営・進行する立場として活躍するという偉業を成し遂げました。これは躍進を続ける本学チームにとって大きな一歩となることでしょう。堀江風花(同4年)は昨年引き続き司会者(Facilitator)を務め、会議の円滑な進行に貢献しました。

JUEMUNでの経験を糧に、本学チームは11月に開催される模擬国連世界大会ドイツ大会(NMUN・Germany)への準備を進めています。国内だけでなく世界規模の模擬国連でもその存在感を発揮している本学学生を臨床英語は今後も包括的にサポートしていく所存です。皆様の温かいご支援・ご協力をお願い申し上げます。



7.20 第36回奈良先端大産学連携フォーラムで講演を行いました

大阪中之島センタービルにおいて、奈良先端科学技術大学院大学主催の「第36回奈良先端大産学連携フォーラム」が開催され、細川MBT担当教授が講演を行いました。

「MBT: 医工連携の新たな形 ~科学技術最前線40年から見える世界~」というテーマで、技術進歩について話をされました。鉄腕アトムを例に出していたので話に入りやすかったかと思えます。

またMBTの概要・現況についてもお話しされ、参加者は時折頷いたりしながら熱心に聴講されていました。



細川MBT担当教授

7.20
7.21

第26回 公立大学病院医療情報協議会を開催して

医療情報部 部長 玉本 哲郎

奈良県橿原市内のミグランス 4F コンベンションセンターで、第26回公立大学病院医療情報協議会を奈良県立医科大学附属病院の主催で開催しました。参加施設は、公立9大学の10病院で、札幌医科大学、福島県立医科大学、横浜市立大学、名古屋市立大学、京都府立医科大学、大阪公立大学、奈良県立医科大学、和歌山県医科大学、九州歯科大学でした。会場には計36名が参加し、ZOOMでのWEB参加者もいました。

この協議会は今年で26回目を迎えていますが、各大学の医療情報部門の交流を大切にしており、互いに顔の見える関係を構築すべく、特に事務部門の方々の積極的な参加をお願いします。そのため、定例の報告事項や調査依頼については資料ベースでの報告にとどめ、協議会の内容については、開催校が自由に決められるようになってから協議会自体が活性化しています。今回は、特別講演を本学・公衆衛生学講座の今村教授に「データ分析からみた地域医療」のテーマでお願いしました。各大学からの発表は、情報セキュリティや病院機能評価についてのテーマでした。普段の業務や今後の病院情報システムの更新をしていく上で、有意義な意見交換ができたと思います。今回の協議会を主催するにあたって、医療情報部のスタッフをはじめ、協力していただいた大学の関係の皆様に感謝しています。

2024年度は和歌山県立医科大学が主催で、7月に開催される予定です。この協議会が、今後も各大学のスタッフが積極的に参加していただける会となることを望んでいます。

WELCOME TO Nara

第26回 公立大学病院医療情報協議会

奈良県立医科大学附属病院 病院長 吉川公彦 医療情報部長 玉本哲郎

1日目: 2023年7月20日(木) 13:30-17:30
2日目: 2023年7月21日(金) 9:15-12:15

場 所: ミグランス 橿原市役所分庁舎 4Fコンベンションルーム

奈良県立医科大学 公衆衛生学講座・今村知明教授

特別講演
データ分析から見た地域医療
NDB分析の現状と課題

7.20

週刊少年サンデーより取材を受けました

玉井進記念四肢外傷センター 准教授 河村 健二

手の外科を題材にした医療漫画「テノゲカ」が、週刊少年サンデー（小学館）で連載されています。本学において、1965年に世界で初めて切断指再接着術を成功された玉井進先生（整形外科学名誉教授）のお名前も作中に登場しています。7月20日に漫画「テノゲカ」の原作者、漫画家、医療監修、編集部の方々が取材のために本学を訪問されました。取材の記事は漫画の単行本に掲載されています。玉井進先生へのインタビューに続き、図書館の玉井進記念四肢外傷センター設立記念の展示コーナーと附属病院の玉井進記念四肢外傷センターを取材陣に見学して頂きました。



河村准教授、新井隆広氏（漫画）、市原理司氏（監修）、玉井進名誉教授、詩石灯氏（原作）

7.27
8.31
9.25

MBT 研究所運営会議を開催しました

MBT 研究所では、月に一度のMBT 研究所運営会議にて各活動の進捗報告や企画調整を行っています。会議の中では、議題にまつわる新しい提案や懸案事項の対策などを練り、今後の活動に向けてディスカッションしました。

10/22(日) 吉野町での奈良県防災総合訓練、10/27(金) 湘南アイパーク講演“医学を基礎とするまちづくり(MBT)と産業創生”、10/28(土) けいはんな映画劇場、11/3(金) 4(土) HANAZONO EXPO 2023、11/21(火) 22(水) 東京ビッグサイトでの2023“よい仕事おこし”フェア、12/19(火) 20(水) イノベーションストリーム KANSAI 等今後も積極的にMBT 活動の場を広げていきますので、ご協力をよろしくお願いいたします。



7.29

第55回日本医学教育学会大会で発表しました

医学科6年 永島 慧法

第55回日本医学教育学会大会(長崎出島メッセ於)に参加し、ポスターセッションで「医学生の勉強に対するモチベーションの調査」という内容で発表しました。本調査では、Google フォームを用いた医学生へのアンケート調査の結果をまとめました。意欲的な学生は主体的に学習することに興味を示し、重要視していることが示唆されました。ご指導いただきました教育開発センターの若月幸平先生、岡本左和子先生に感謝いたします。



7.29

看護学科オープンキャンパス2023を開催しました

看護学科オープンキャンパスを来学型で開催しました。

はじめに嶋副学長からビデオメッセージをいただき、続いて川上看護学科長の講演、田中看護教育部長から学科紹介及び入試概要についてご説明いただきました。そして今年の模擬ミニ講義は、臨床病態医学の山内教授から「病態医学総論と呼吸器疾患」をテーマに講義いただきました。また、今年度からの新しい取り組みとして、本学学生が大学紹介の発表をする時間を設け、待ち時間に学生が作成したインタビュー動画を流しました。

その他に、看護学科棟内の実習施設見学、教員・在学生との相談コーナーなどのプログラムを実施しました。

参加者からは、「実際の教室で模擬講義を受けたり、施設見学では聴診器で心臓の音を聞く体験ができたりと入学後のイメージが膨らみ、大変充実した時間でした。」や「パンフレットだけでは分からない大学の雰囲気分かり、ここで学びたいという気持ちが一層強くなりました。」などの感想が寄せられました。



模擬ミニ講義



相談コーナー

8.6

脈博 HEAT BEAT EXPO 2023 で MBT 講演を行いました

医療×ワクワクをテーマにした「脈博」が福岡 PayPay ドームにて開催されました。

その中の「キミが目指す、宇宙の暮らしと医療」イベントで、MBT 研究所 梅田副所長が MBT の取り組みや具体的な展開および今後について講演されました。

講演後は、参加者たち(医師・住民・民間の方・学生)と将来の宇宙での暮らしをターゲットに健康管理の重要性や医療のあり方について議論、質疑応答に対応しました。

今後は、遠隔医療相談・遠隔医療・AI を活用した個別適合サービスなどの現場ニーズに対して、本イベントの主催側とも共創し、実証フィールドの連携を含めたコラボ展開をしていく予定です。



8.9

中学生の職場体験を4年ぶりに行いました

昼下がりの病棟の一室に、中学生の澆漑とした声が響きました。

「助産師のやりがいは何ですか？」

「助産師になって嬉しかったことはなんですか？」

質問に答える当院助産師を見つめる中学生の、興味津々といった眼差しが印象的でした。

8月9日、助産師に関心のある県内中学生3名の職場体験を行いました。コロナ禍の影響により、中学生を受入できない状況が続いていましたが、5月に感染症法上の位置付けが変更されたことを受け、令和元年以来となる職場体験を行いました。実に4年ぶりの実施となります。半日にも満たない短い時間でしたが、中学生より熱心に質問がなされる等、活気に満ちた職場体験となりました。当院での経験が、3名にとって有意義なものとなることを期待しています。



職場体験を行った産科病棟にて

8.21
~
8.24

令和5年度コンソーシアム実習(奈良医大・早大連携講座)を開催しました

コンソーシアム実習は、早稲田大学との連携講座として平成22年度から開始し、早稲田大学にて「医工学と医学」、本学にて「地域医療学概論」を隔年で開催しています。

今年度は本学にて3年ぶりに対面授業として開講され、早稲田大学から13名、本学から30名の学生が参加しました。

初日は、嶋医学部長の開講式に始まり、早稲田大学野口教授の「医療経済」を受講後、懇親会を開催しました。懇親会では、教育開発センター城戸講師が企画したアイスブレイク自己紹介やゲームを通して学生間の親交が深まり、なごやかな雰囲気の中初日を終了しました。

2日目、3日目には、早稲田大学長谷川教授から「医療経営」、岩崎先生から「高齢社会とICT」の講義があり、経済学から見た医療や、医療と高齢社会の結びつきなどの現代医療が抱える問題などについて学習し、普段の授業とは違ったアプローチで医療について考える機会となりました。

また、奈良県の地域医療について、本学疫学・予防医学講座の佐伯教授から「疫学・予防医学」、地域医療学講座の周藤准教授からは「行政の視点」、総合医療学講座の吉本講師からは「附属病院の視点」、南奈良総合医療センターの明石へき地医療支援センター長からは「地域病院の視点」と、多角的な視点から講義をしていただき、地域医療についての理解を深めました。

最終日には、南奈良総合医療センターを訪問し、実際の地域医療の現場を見学する機会を持ちました。松本院長から南和広域医療企業団3病院の設立やへき地診療所との繋がり等南和の医療を担う病院についてご講話をいただいた後、院内施設やドクターヘリを見学させていただきました。

午後からは、総まとめとして地域医療ワークショップを行い、複数の環境下における共通の患者シナリオを班ごとに考察し、各班の発表に教育開発センター若月教育教授と南奈良総合医療センター明石先生からコメントをいただいて、今年の実習を終了しました。

各分野の先生方や南奈良総合医療センターの皆様にご協力を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。



地域医療ワークショップ 教育開発センター若月教育教授



懇親会の様子



南奈良総合医療センター ドクターヘリ

学報編集委員会からのお知らせ

✎ 寄稿記事募集案内

「学報」では、奈良県立医科大学や附属病院に関すること、お知らせ等を掲載するため、これらに関連する記事を広く募集しております。

掲載を希望する記事がある場合は内線2206までお問い合わせください。

なお「学報」は年4回発行しており、本学教職員・学生のみならず本学同窓会会員や関連大学・病院等にも配布しております。



8.25 血友病包括外来の取り組み

小児科学 助教 古川 晶子

本学附属病院では、血友病患者さんを対象とした「血友病包括外来」を年3回実施しています。今回はその取り組みをご紹介します。

「血友病包括外来」は2011年から当院で実施している、その名の通り血友病患者さんを包括的に診察する外来です。血友病患者さんの管理に重要な、小児科・整形外科・口腔外科・リハビリテーション科の診察を同時に受けることができます。感染対策のため受診人数に制限を設けているものの、8月25日午前に実施した包括外来では6名の血友病患者さんが受診されました。

包括外来では、事前問診票をもとに看護師が面談を行い、現在の生活や治療状況などについて伺い問題点の抽出や掘り下げを行います。各診療科では血友病診察を専門に行っている医師・理学療法士・歯科衛生士による診察を行い、関節評価シートやレントゲンの結果も踏まえて、現在の治療が十分かどうかや問題点解決の方法についてお話しします。具体的に自宅で行うエクササイズや今後必要な手術・抜歯などについても相談することができます。患者さんは複数の診療科を1度に受診でき、また普段の外来受診よりもゆっくと相談ができるので、毎回とても満足いただいています。

また包括外来では、血友病に関する様々な資料を自由に閲覧・持ち帰りいただけるように配置しています。学校や職場へ病気のことを説明したいけれどうまく伝えることができるか心配…といった場合にも、これらの資料を活用していただいています。その他、スポーツや保因者に関することなど幅広い内容を取り揃えており、こちらも患者さんに大変好評です。

今後より多くの血友病患者さんのQOL向上を目指して、スタッフ全員で取り組んでいきたいと考えています。見学もできますので、少しでも興味を持っていただければ、小児科古川まで遠慮なくご連絡ください。



各診療科のブースが並び



包括外来に携わる各診療科、多職種のメンバー

9.1 臨床実習における学生の電子カルテ記載が始まりました

令和5年4月1日から施行された医師法の改正により、臨床実習における医学生の医業が法的に位置づけられ、また、医学教育モデル・コア・カリキュラムにおいても、医学生は診療チームの一員として診療業務を分担し、主体性を持って積極的に診療に参加するため、診療録の記載が重要視されています。

このことから、電子カルテシステムを改修し、令和5年9月4日から開始する選択型臨床実習(臨床医学Ⅲ)から、臨床実習生が電子カルテを記載できる体制を整備しました。

また、本内容について、臨床実習開始前の8月28日に教員に対して、医療情報部長の玉本病院教授及び教育開発センターの若月教育教授によるFD研修会を実施し、電子カルテシステムの概要や指導方法、留意点等について周知しました。

さらに、学生に対しても、9月1日に玉本病院教授及び若月教育教授から講義を行ったうえで、実際に電子カルテシステムを操作する研修会を行いました。



医療情報部長 玉本病院教授 教育開発センター 若月教育教授

9.2 公開講座「くらしと医学」を開催しました

榎原文化会館大ホールにて公開講座「くらしと医学」を開催しました。

今回は、眼科学 緒方奈保子教授による「眼の健康が長寿のヒケツ!」、解剖学第二 和中明生教授による「痛みの新しいメカニズム」の2講演を行い、県内外から約350名の方が来場されました。受講者からは、「白内障手術後の生活で気をつけることがわかってよかった」、「痛みの研究のさらなる発展に期待しています」などの感想が寄せられ大変好評でした。

次回は2024年2月3日(土)午後、榎原文化会館大ホールでの開催を予定しています。詳細は決定次第本学ホームページにてお知らせします。



眼科学 緒方教授



解剖学第二 和中教授

8.29

奈良先端科学技術大学院大学との連携活性化に向けた研究者交流会を開催しました

本学と奈良先端科学技術大学院大学とは、平成 21 年 3 月から相互協力に関する包括協定を締結しています。両大学の連携を図るために設置された「連携活性化推進室運営委員会」での審議に基づき、出張講義や研究者交流会を開催しています。

研究者交流会は、新型コロナウイルスの影響で 3 年前から開催が見送られてきましたが、今回 4 年ぶりに本学で開催し、両大学あわせて 50 名を超える先生方に参加いただきました。

当日は、臨床研修センター 1 階カンファレンス室で、共通あるいは類似した研究テーマごとに 5 つのグループに分かれ、グループ討論を行いました。グループ討論は 2 部制で、1 部と 2 部で別の先生方と議論していただきました。参加者は、研究の現状、ニーズ・シーズ等について、活発に意見交換を行っていました。

また、研究者が自身の研究をアピールするためのポスター展示も行われ、研究内容に関するポスターセッションを実施しました。共同研究や競争的資金の獲得等、両大学にとって、今後の研究のさらなる発展に繋がることを期待しています。



細井理事長・学長挨拶



嶋医学部長挨拶



グループディスカッション



ポスターセッション

9.2

第 5 回 MBT 難病克服支援 WEB セミナーを開催しました

第 5 回を迎えた難病克服支援 WEB セミナーは 350 名を超える多くの申込のなか、難病診療拠点病院委員長の本学脳神経内科学杉江和馬教授司会のもと、2 名の講師をお迎えし開催いたしました。冒頭、細井理事長の挨拶から始まり、岐阜大学大学院医学系研究科脳神経内科学分野教授の下畑享良先生、未来 ISSEY 代表の吉田ゆかり様からご講演をいただきました。

下畑先生は「死を望むひとに私たちは何をすべきか」と題して、昨今の難病医療の世界で話題や問題視されている患者の安楽死や医師介助自殺問題を取り上げ、「死を望むひと」に医療者は何をすべきかについて述べられました。

吉田様は第 2 回 MBT 映画祭の受賞者であり、自身の次男の小児がん発症に伴う兄弟の心の変化や家族に発生した諸課題を通して気づきを得て、NPO 事業を立ち上げた経緯とその取り組みを紹介されました。

お二人の講演はとてわかりやすく色々と考えさせられる内容であり、非常に有意義でした。今後も難病克服支援 WEB セミナーを開催していきたいと思ひます。



二次元バーコードからセミナーを視聴できます。



(上段左) 杉江和馬氏 (上段右) 吉田ゆかり氏
(下段左) 下畑享良氏 (下段右) 細井裕司氏

医学科看護学科合同科目「次世代医療人育成論」を開講しました

本科目は、医学科1年生と看護学科1年生を対象とした医看合同科目であり、良き医療人育成プログラムの一つに位置づけられています。

1年次から医師や看護師により深く求められる教養「プロフェッショナルリズム」を認識することを目的に、「知的生産技術」、「コミュニケーション」及び「人権教育」の3つをテーマに授業を実施しました。

「知的生産技術」では、特にチーム医療を担う医療人として求められる批判的思考力（クリティカル・シンキング）について、演習を通じて、体験的にその重要性や必要性を自ら気づく授業を行いました。

次に、「コミュニケーション」では、医療人として必要な他者との協働関係を結ぶためのコミュニケーション力を、理論から実践方法まで段階的に学べるように授業を配置し、実践的な授業を行いました。また、医療者と患者コミュニケーションの基本姿勢と視点を身につけることを目的として、障がいを持った患者さんから直接話を聞きました。

「人権教育」では、奈良県が実施している男女共同参画推進のための取り組みや障がい者・性的マイノリティ者に対する偏見や差別、人権侵害をなくし、共に生きる社会人を実現する態度を学びました。さらに、人権教育に関してグローバルな視点でのテーマや内容を取り上げ

るため、今年度から新たに JICA（国際協力機構）関西に依頼し、「発展途上国のジェンダー・人権について」をテーマに授業を実施しました。講師からは途上国の状況や課題等について、実際に現地での経験も踏まえて講義いただき、大変貴重な機会となりました。

最終日には、4日間の授業を通じて得たことを「コミュニケーション能力」と「共生社会」の2つをテーマにグループワークを行い、その成果を発表しました。学生の質疑応答だけでなく、司会を務めた先生からも実体験を基にコメントをいただき、活発な発表会となりました。発表会後は、各班が投票を行い、最優秀班に表彰を行いました。

5日間の授業を終えた学生の感想には、「医療者の言葉の使い方が、患者の心を開くことを学んだ」、「医療は1人で行うものではなく、チームで行う必要があるため、コミュニケーション能力を養う必要がある」、「医療者と患者という関係性ではなく、ひとりの人と人として患者と向き合いたい」、「たくさんの人とグループワークをして、コミュニケーションをとることができ、将来のキャリアに活かせる授業だった」等があり、医師・看護師を目指す学生にとって、有意義な時間となりました。



発表会の最優秀班

9.14

第76回解剖慰霊祭を執り行いました

第76回解剖慰霊祭を、THE KASHIHARAにおいて執り行いました。

今年は新たに、系統解剖42柱、病理解剖19柱の計61柱の御霊を加えて、6,869柱の御霊をお祀りさせていただきました。黙祷の後、学長の祭文奉読、医学科2年生総代の和田 泰輔さんの感謝文奉読、参列者の献花と続き、最後に学長からのお礼の挨拶により終了しました。

医学の発展と医学教育のために自らの御体を捧げてくださった方々の崇高なご遺志に改めて深い感謝の意を表しますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。



細井学長による挨拶

9.15

実験動物慰霊祭を執り行いました

実験動物の尊い生命に対し哀悼の意を表すため、実験動物慰霊祭を執り行いました。今年度は猛暑のなか、たくさんの研究者に参列していただきました。

私たち医学に携わる者は、人間はもちろん動物の生命も尊重しなければなりません。代替手段がなく、やむをえず動物実験を行うときは、動物愛護の観点から、動物への苦痛を軽減し、さらに犠牲になる動物数の削減に努める必要があります。そして、動物の生命から得られた貴重な情報を研究成果として広く社会に還元していくことが私たちの責務です。



慰霊祭の様子

9.25 MBT 特命教授川本恭治氏（城南信用金庫理事長）による特別講義

本学は今年2月に、よい仕事おこしフェア実行委員会（事務局：城南信用金庫）及びMBT コンソーシアムと相互に協力し地域の活性化と産業振興を図ることで合意し、連携協定を締結しました。

その城南信用金庫の理事長である川本恭治氏が6人目のMBT 特命教授に就任し、本学学生に講義を行いました。

「地域金融の役割と信用金庫!!」と題した講義では、「困っている人を助けるのが信用金庫」、「病気で困っている人を助けるのが医師」、「我々は同じ役目を背負っており日本を明るく元気にするために全力投球をしまりましょう」と激励していただきました。

講義の様子は二次元バーコードから動画を視聴できます。



MBT 特命教授委嘱式



川本氏の講義

受賞者報告

Winner Report

6.16 第23回都留賞を受賞しました

脳神経外科学 診療助教 岡本 愛

本年6月に開催された第38回日本脊髄外科学会において、最優秀論文著者に送られる都留賞を受賞いたしました。受賞した研究は「Prevalence and Clinical Impact of Cervical Facet Joint Degeneration on Degenerative Cervical Myelopathy: A Novel Computed Tomography Classification Study.」で、関節面びらんを伴う重度の椎間関節変性が、脊髄症の責任障害高位に、そして特に症状の急速進行例に多く認められることを示した論文です。これを励みに今後とも精進して参ります。この場をお借りして、脊椎脊髄外科の道に導いてくださった中瀬裕之先生、日々ご指導いただいている竹島靖浩先生に感謝申し上げます。



7.3 第12回奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞の授賞式を開催しました

女性研究者学術研究奨励賞は、優れた研究成果を挙げた本学の女性研究者を顕彰し、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成と男女共同参画の促進等に資することを目的に、平成23年度に創設されました。

第12回の受賞者は消化器・総合外科学講座の松尾泰子助教で、授賞式にて賞状、記念品の盾及び研究奨励金を授与しました。授賞式後、松尾泰子先生による「大腸癌肝転移におけるCD200発現の臨床的意義の解明と新規治療法の開発」と題した講演を行いました。



Winner Report

6.24

第240回日本内科学会近畿地方会で
医学生セッション発表賞を受賞しました

医学科5年(脳神経内科学) 大上 侑里子

神戸国際会議場で開催されました第240回日本内科学会近畿地方会で、医学科5年(脳神経内科学)の大上侑里子さんが演題「視神経周囲炎と虚血性視神経症を呈した巨細胞性動脈炎の1例」を発表し、医学生セッション(口演発表)発表賞を受賞しました。脳神経内科と病理診断科、眼科、皮膚科との共同研究による成果であり、巨細胞性動脈炎による視神経障害の病態機序を考える上で貴重な症例検討でした。プレゼンテーション・質疑ともの的確で見事でした。今後の内科学診療および研究の大きな励みとなり、さらなる研究の発展に貢献してくれるものと期待しています。



7.3

第30回中島佐一学術研究奨励賞
の授賞式を開催しました

今回の受賞者は血栓止血先端医学の中島由翔特任助教、放射線診断・IVR学の岩越真一助教の2名で、受賞者にはそれぞれ賞状、記念品の楯及び研究奨励金が授与されました。

表彰式後、中島特任助教が「第Ⅷ因子A1ドメインの酸性領域はトロンビンによる活性化及び開裂を促進する」、岩越助教が「大動脈疾患に対するステントグラフト内挿術における、画像評価を用いたエビデンス創生」と題して講演を行いました。

この賞は、故中島佐一名誉教授のご遺族からの寄附金を財源として、医学の学術研究に優れた業績をあげた本学の若手教員に授与し、さらなる研究の発展を奨励することを目的としています。毎年、各所属に応募要項を案内していますので、若手教員の積極的な応募をお待ちしています。



中島特任助教



岩越助教



前列：左より岩越助教、細井学長、中島特任助教
後列：左より吉川病院長、田中教授、辰巳准教授、嶋医学部長

7.7

2023年度日本蛋白質科学会
若手奨励賞

未来基礎医学 特任助教 宗 正智

7月5日～7日に開催された第23回日本蛋白質科学会年會にて若手奨励賞を受賞しました。受賞演題は「Amyloid formation of the β_2 -microglobulin variants, D76N and V27M: Diverse diseases via a common assembly mechanism」で、蛋白質の異常凝集であるアミロイド線維の構造多型と病態の関連および構造多型を生み出すメカニズムに関しておこなった研究について報告しました。2種類の異なる病気を発症する β_2 -ミクログロブリン変異体のアミロイド線維構造や蛋白質物性を調べることで、アミロイド線維形成機構の解明へとつながる成果が得られました。これらの変異体アミロイド沈着の組織特異性の要因を突き止め、発症機構の全容を解明すべく今後も研究を進めてまいります。



7.7

奈良医大発ベンチャー「モルミル株式会社」が
HVC KYOTO 2023でKRP賞を受賞しました

未来基礎医学 准教授 森 英一朗

独立行政法人日本貿易振興機構、および京都リサーチパーク株式会社による主催(京都府、京都市と連携)のヘルスケア分野特化型イノベーションプラットフォーム「HVC (Healthcare Venture Conference) KYOTO 2023」のDemoDayが7月6日～7日に開催されました。HVC KYOTOは、日本国内に留まらず世界を舞台にヘルスケア分野で活躍するスタートアップを輩出するため、2016年の開始当初から海外の大学・VC/インキュベーター・スタートアップと連携し、全編英語によるピッチを行ってきております。8年目となる本年は「Biotech」と「Medtech」の2部門に分けて22社のスタートアップが採択されました。奈良医大発ベンチャー「モルミル株式会社」(登壇者：代表取締役・森英一朗)は、「HVC KYOTO 2023」でBiotech部門のファイナリストとして登壇し、KRP(京都リサーチパーク)賞を受賞しました。



Winner Report

7.15

第135回日本循環器学会近畿地方会 学生・初期研修医セッション1 優秀賞

医学科3年 後藤 仁

第135回日本循環器学会近畿地方会の学生・初期研修医セッションでLMNAという遺伝子の変異によって起こる拡張型心筋症の疾患モデルを患者由来のiPS細胞を用いて作製し、治療薬を探索したという内容で発表しました。本研究は2年生の冬に行われたリサーチクラークシップで東京大学医学部附属病院にて行ったものです。私は今回初めて学会に参加したので、発表の際は非常に緊張しました。しかし、様々な先生方のサポートによって、無事に発表を終えることができ、賞までいただくことが出来ました。リサーチクラークシップによって研究の楽しさを感じることで、非常に充実した実習となりました。このような機会を設けてくださり、実習のサポートをしてくださった奈良医大循環器内科の皆様、派遣先の東京大学医学部附属病院循環器内科の皆様にご感謝申し上げます。



7.21

第32回日本小児泌尿器科学会総会・ 学術集会にて会長賞を受賞しました

泌尿器科学 助教 森澤 洋介

この度、第32回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会にて会長賞を受賞いたしました。受賞演題は「停留精巣に対する精巣固定術の手術時期遅延のリスク因子の検討」です。停留精巣は最も頻度の高い泌尿器先天性疾患で、早期の手術が将来の妊孕性の改善と精巣腫瘍発生のリスク軽減に繋がります。停留精巣は乳幼児健診で診断されますが、紹介時期の遅延が手術遅延のリスク因子となることが分かり、乳幼児健診を行ってられる小児科の先生へこの疾患の病態の理解を啓発することが重要だと考えられます。小児科の先生方への啓発活動とともに今後も停留精巣の診療・研究に励みたいと思います。



7.22

第54回日本脾臓学会大会でPanCAN Clinical Research Awardを受賞しました

消化器・総合外科学 助教 中村 広太

第54回日本脾臓学会大会においてPanCan Clinical Research Awardを受賞しました。発表内容の「切除可能脾臓癌予後予測 Transcriptomic signatureの開発及び多施設臨床コホート検証」では、切除可能脾臓癌における新規治療戦略の指摘候補選別を目的とし、予後予測miRNAパネルの開発を行いました。今回の受賞を励みとして、今後もさらに基礎・臨床研究に励む所存です。本研究にあたり多大なる御指導を賜りました庄雅之教授、研究に御協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。



7.28

臨床研究推進助成事業助成金を 拝受しました

総合周産期母子医療センター (MFICU) 助教 河原 直紀

「子宮筋腫手術前 GnRH アンタゴニスト保存療法における隔日投与の有効性および忍容性に関する比較試験」と題した特定臨床研究実施許可に伴い、上記助成金を拝受しました。子宮筋腫に対して手術を予定している患者様に対しては、子宮体積の減少を期待してGnRHアンタゴニストとしてレルミナ®錠を投与しますが、副作用として更年期症状が問題になることが多々あります。筋腫縮小効果を担保しつつ更年期様症状を緩和する新たな投与方法として、2ヶ月連日投与後4ヶ月隔日投与の有効性の非劣性と副作用軽減の優越性を6ヶ月間連日投与と比較する試験です。元来、レルミナ®錠には割線がないために分割できず、保険適用上も連日投与となっていることから当該試験を行うこととなりました。当該試験はあすか製薬株式会社の協賛のもと行われ、レルミナ®錠(薬価869.80円/錠)が20,000錠無償提供され、倫理審査費用と賠償保険費用を負担していただきましたことに心より感謝しております。いよいよ本年10月より試験がスタートしますが、有効性を担保しつつも患者様の負担がより少ない医療を目指し邁進する所存です。尚、当該試験において多大なご指導を賜りました木村文則教授、構想から全面的にバックアップしていただいた、臨床研究センターの笠原正登教授をはじめとした様々なスタッフの方のご理解とご援助を賜りましたことを心より感謝申し上げます。

令和6年度 入試日程【医学部】

大学入学共通テスト実施日 令和6年1月13日(土)・14日(日)

学 科	入試区分	募集定員	出 願 期 間	試 験 日	合格発表(予定)
医 学 科	推 薦*1	38	令和5年12月13日(水)～12月15日(金)	令和6年2月3日(土)・2月4日(日)	令和6年2月13日(火)
	前 期	22	令和6年1月22日(月)～2月2日(金)	令和6年2月25日(日)・2月26日(月)	令和6年3月5日(火)
	後 期	53		令和6年3月12日(火)・3月13日(水)	令和6年3月21日(木)
看護学科	推 薦*2	35	令和5年11月1日(水)～11月2日(木)	令和5年11月19日(日)	令和5年12月12日(火)
	前 期*3	50	令和6年1月22日(月)～2月2日(金)	令和6年2月25日(日)・2月26日(月)	令和6年3月5日(火)
	後 期		実施しません		

- *1 医学科学校推薦型選抜は緊急医師確保特別入学試験13名と地域枠入学試験25名を募集します。
- *2 看護学科学校推薦型選抜は地域枠のみ募集します。
- *3 看護学科一般選抜(前期日程)は、一般枠40名と地域枠10名を募集します。
詳しくはホームページで確認してください(<https://www.naramed-u.ac.jp/university/nyushijoho/index.html>)
看護学科学校推薦型選抜学生募集要項は9月下旬から配布中です。医学科学校推薦型選抜学生募集要項は11月中旬、その他の募集要項は12月上旬から配布予定です。

公開講座情報

がんゲノム医療拠点病院 奈良県立医科大学附属病院がんゲノム医療市民公開講座

開 催 日：2023年12月23日(土)
11:00～12:00(受付10:00～)

場 所：ミグランス橿原市役所分庁舎 4F コンベンションルーム

概 要：最新のがん治療について県民を対象に講演会を開催します

講 演 者：がんゲノム・腫瘍内科学 教授 武田真幸

対 象：県民

備 考：事前申込必要 参加無料

問 合 せ 先：奈良県立医科大学附属病院 病院管理課
0744-22-3051
<https://hospital.naramed-u.ac.jp/>

The donation person name

寄附者ご芳名

「未来への飛躍」基金にご協力いただきありがとうございました

平素より未来への飛躍基金へのご理解とご協力をいただき、心から御礼申し上げます。今号では令和5年7月～令和5年9月にご寄附いただいた方々のご芳名を掲載しております。

【個人】

- ◆100万円以上
坂本 光章 様
掲載を希望されない寄附者様 2名
- ◆30万円以上100万円未満
井上 雄二 様 熊田 幸江 様 澤井愛次郎 様
杉江 和馬 様 田中 康仁 様 田畑 尚一 様
田伏 守 様 中田 荷葉 様 中谷 晃 様
中林 仁美 様 林 博文 様 細井 裕司 様
三上 洋 様 宮田 重樹 様 森永 太輔 様
掲載を希望されない寄附者様 2名
- ◆10万円以上30万円未満
石澤美保子 様 木下 國浩 様 杉江 美穂 様
築村 佳典 様 西原 聖次 様
掲載を希望されない寄附者様 8名
- ◆10万円未満
久下 博之 様 齊藤正一郎 様 鈴木 博 様
多田 卓仁 様 田中 直樹 様 土井 渉 様
中平 毅一 様
掲載を希望されない寄附者様 14名
- ◆金額の公表を希望されない寄附者様
植田 りな 様 川上あずさ 様 工藤 利彩 様
辰巳 公平 様 三浦 幸子 様 矢田 弘史 様
勇井 克也 様

【法人・企業】

- ◆100万円以上
医療法人 二昌会 様
- ◆30万円以上100万円未満
医療法人 知成会 様

【奈良県立医科大学 総務広報課】
TEL：0744-22-3051(内線2803) E-mail：hiyakukikin@naramed-u.ac.jp
【未来への飛躍基金 HP】 <https://hiyakukikin.naramed-u.ac.jp> または「未来への飛躍基金」で検索！



Media Listing Information

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生を紹介します。

	日付	媒体		対象者	掲載概要
2023年	3月12日	神戸新聞 子ども新聞 週刊まなびー		名誉教授 大崎 茂芳	クモの糸に魅せられ40年
	7月14日	読売テレビ るてんのんてる		名誉教授 大崎 茂芳	未知のスパイス、未踏の旨味。究極のカレー体験へ、誰もが未体験の舌の冒険へと誘う！AIウルトラエクスペリメント「クモの糸は美味しいか？」
	8月3日	北海道新聞	MBT 研究所	研究教授 梅田 智広	センサーで高齢者見守り、沼田町営住宅に導入し家電使用で病気や認知症の兆候把握
	8月5・8日	NHK Eテレ ヴィランの言い分		名誉教授 大崎 茂芳	嫌われもののクモの巣
	8月15日	Medical Tribune	救急医学	教 授 福島 英賢	妥当？救急隊の非生理学的緊急度判定
	8月16日	朝日新聞	救急医学 看護部 高度救命救急センター ICU	教 授 福島 英賢 看護指導主査 伊藤 憲子	医師の労働時間削減へ「タスクシフト」広がる来春からの規制前に 特定看護師が呼吸器や麻酔管理
	8月20日	読売新聞 病院の実力	臨床病態医学	教 授 山内 基雄	睡眠障害について解説
	8月24日	NHK 総合 (再放送) あしたが変わるトリセツショー	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	教 授 北原 紘	もう“めまい”に悩まない！★解明！耳の迷宮SP
	9月4日	NHK 奈良 ならナビ		理事長・学長 細井 裕司	軟骨伝導イヤホンで会話を容易に 河合町の高齢者施設が導入
	9月5日	読売新聞		理事長・学長 細井 裕司	「軟骨伝導」イヤホン試す 河合の老人ホームで実演会
	9月5日	日本経済新聞		理事長・学長 細井 裕司	軟骨震わせ聞き漏らさず 奈良の老人ホーム窓口に伝導イヤホン
	9月5日	MBS 毎日放送 よんちゃんTV	救急医学	医 員 木下 有紗	ロザンの2025万博まで道案内しよう！
	9月7日	毎日新聞	MBT 研究所	研究教授 梅田 智広	遠隔地から家電の電力消費量を測ることで、高齢者の変化を察知した見守りサービス
	9月13日	時事メディカル Medical Tribune	臨床病態医学	教 授 山内 基雄	睡眠時無呼吸に新治療法・舌下神経電気刺激
	9月15日	NHK 奈良 ならナビ	感染症センター	教 授 笠原 敬	新型コロナ感染対策マニュアル改訂へ 専門家が高齢者施設視察
	9月16日	夕刊フジ	皮膚科学	教 授 浅田 秀夫	带状疱疹「電気が走るような痛み」に自己防衛が必要
	9月20日	奈良新聞			県立医大が主催する奈良健康フェアで多くの家族連れらが楽しみながら健康増進の意識を高めた
	9月24日	TBS 系列 健康カプセル！ゲンキの時間	消化器内科学	教 授 吉治 仁志 准 教授 赤羽たけみ	コロナ禍の今こそ知って欲しい「せんとくんの奈良宣言 2023」～緊急宣言！今肝臓が危ない～脂肪肝・肝硬変の原因と対策
	9月25日	産経新聞 夕刊		理事長・学長 細井 裕司	自治体や金融機関で重宝 軟骨伝導イヤホン
	9月28日	奈良新聞			城南信金・川本理事長 県立医大で特別講演
	10月1日	福祉用具の日しんぶん 2023		理事長・学長 細井 裕司	難聴に気付き、認知症予防につなげる
	10月7日	奈良新聞		理事長・学長 細井 裕司	大和大学白鳳短期大学部 軟骨伝導イヤホン解説 県立医科大細井学長発見者自ら特別講義
	10月16日	奈良テレビ ゆうドキッ！			10年以上続く社会貢献活動 山本商事グループ 奈良電力株式会社が県立医科大学附属病院へ車いす寄贈
10月21日	読売テレビ ウェークアップ	疫学・予防医学	特任准教授 大林 賢史	10月21日の「灯りの日」にちなんで、光と体内時計と健康の関係について解説	

メディア掲載情報をお寄せください

総務広報課 内線：2206

編集後記

すっかり秋も深まり少しずつ風が冷たくなってきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。今年は4年ぶりに西日本医科学学生総合体育大会が開催され、各競技で本学学生が活躍しました。本誌11ページで結果を紹介していますのでご覧ください。

